



# RENOUVEAU

KYOTO NOTRE DAME UNIVERSITY

京都ノートルダム女子大学 大学報

ルヌヴォー

VOL.87

2012年4月1日

巻頭言／1

魅力ある大学形成を  
めざして

創立50周年記念式典等の  
報告・御礼／2

創立50周年記念  
公開講演会・公開講座・イベント紹介、  
実施報告／3

2011年度  
研究プロジェクト報告会／9

NEWS／11

輝くND生／17

各部局から／23

行事予定／30

教員人事／31

編集後記／31



学長 藪内 稔

## 魅力ある大学形成をめざして

2011年度、本学は創立50周年を迎えました。2012年度を次の50年への原点とし、すべての大学構成員・大学関係者の皆様とともに力を合わせ、50年の歴史が築き上げてきた成果を着実に将来に繋ぎ、一層発展させていきたいと思っています。

2011年10月12日、ノートルダム女学院中学・高等学校創立50周年記念講演で、Sr. Roxane Schares, SSNDは、次のように語られました。  
“The power of education transforms persons and through them transforms the world.”

(教育の力は、人を創り、そのことを通して社会を変える。)

翻って、京都ノートルダム女子大学は、そのような教育の力を湛えている魅力ある大学といえるのでしょうか。身近なところから考えて、取り組んでいきましょう。

本学の特徴として、少人数制ということがしばしば語られます。しかしながら学生数が少ないことで少人数制教育といえないことは自明です。大学の教育の場で、教員、職員がどのように緊密に、組織だって、学生に係っているのか、その質が問われます。

今、大学の教育方針の基本が問い直されています。日本では従来、大学で「何を教えるか」が最大の関心事でした。他の先進国では、大学で学生が「何ができるようになるか」ということが重視されています。「何ができるようになるか」を確立させるためには「何を教えるか」が十分検討されなければならないのではないか、という反論も当然ながらあるかもしれません。しかしながら、そのような考えの背景には、学生は、教育場における「客体」であるという認識があった、とはいえないでしょうか。多様な潜在的可能性を学生自らが引出し、自ら興味をもって、学習を持続的、創造的に展開していく自立性と基礎能力を培う教育機関としての自覚を持ちたいものです。このためには大学事務組織の力が不可欠です。

私自身も大学教員として、「経営(社会科学)と技術(理工科学)」の統合(名工大)、「心理学科」の創立(学習院大)、「新領域創成科学(学融合)」の創成(東大)、そして、「心理学部・研究科(基礎・応用分野と臨床分野の統合)」創立(本学)に、何らかの形で関わってきましたが、いずれも程度の差こそあれ、学問体系の学際的組織化とそれに立脚したカリキュラムの形成・充実という側面「何を教えるか」に関心が焦点化され、学ぶ「主体」としての学生についての考慮「何ができるようになるか」に関する認識が何よりも足りなかったことを反省しています。

本学で学ぶ学生・院生が興味を喚起し、本学での学生生活を通して自己変革し、身に付けた借り物でない知の力と情熱で、現在の複雑で多様な社会が直面する諸課題に取り組み、多様な層の人々との連携を図りながら社会を変革していく原動力としての魅力ある大学を、大学構成員全員が知恵を出し合って形成していきましょう。

## 創立50周年記念式典等の報告・御礼

事務局長 下地 隆



2011年12月10日(土)に挙行了しました創立50周年記念式典並びに記念懇親会等を盛会裏に終えることができました。これもひとえに多数の関係者のご支援の賜物と深く感謝しております。

記念式典(於:本学ユニソン会館)は、ご来賓の方々を始め、ノートルダム教育修道女会のシスターの皆様、同窓生、大学関係者など約280名の来場者を迎え挙行されました。戴内稔学長、和田環理事長の挨拶に始まり、中川正春文部科学大臣(代読:奈良人司官房審議官)、荒巻禎一京都府公立大学法人理事長、Sr. Mary Anne Owens、SSNDノートルダム教育修道女会セントラル・パシフィック管区長よりご祝辞を賜りました。引き続き、カトリック京都司教区パウロ大塚喜直



司教の司式によるミサ聖祭が行われ記念式典は終了しました。

記念式典の後、記念懇親会(於:本学食堂)が開催されました。学長挨拶に続き、門川大作京都市長(代読:細見吉郎副市長)、

河田悌一日本私立学校振興・共催事業団理事長、Dr. Mary Pat Seurkampメリーランド・ノートルダム大学学長よりご祝辞を賜りました。お祈りの後、梶田叡一元学長による乾杯で歓談に入り、蒔苗暢夫副学長の謝辞により終了しました。



記念懇親会終了後、学長室において、保護者会から創立50周年記念寄付金の目録贈呈が行われ、学長から保護者会に対し、厚く謝辞が述べられました。



その後、お茶室において、ノートルダム教育修道女会セントラル・パシフィック管区長、理事長、学長、保護者会会長等による庵号除幕があり、裏千家千宗室家元より頂戴した庵号「神徳庵」が披露されました。



また、当日は、「記念ホームカミングデー」も開催され、中井恭子同窓会会長のご挨拶に始まり、ユージニア館別れ式として同館の歴史を偲ぶスライドショーが紹介されました。



その後、シスターメリーマイケル田代第2代学長、梶田叡一第5代学長、相良憲昭第6代学長を始め、卒業生の代表の皆様から懐かしい思い出等が語られました。また、学生サークル「京炎そでふれ!輪舞曲」による演目披露など、多くの卒業生・教職員が集い旧交を温めました。



創立50周年を記念し、2011年度には多彩な公開講座、コンテスト、イベントが開催され、

人間文化学科主催 コンテスト

募集期間:6月1日(水)~8月31日(水)

## 絵手紙コンテスト 「未来の〇〇へ」

大学創立50周年事業の一環として人間文化学科が実施した「絵手紙コンテスト—未来の〇〇へ」は、全国の女子中高生285名の応募があり、成功裏に終えることができました。どの作品もなかなかの出来栄で、メッセージや絵の中にこめられた、各人の熱い思いが伝わってくるものばかりでした。審査員は学科教員5名に加え、学外より絵本作家・イラストレーターの永田萌先生、京都中央郵便局営業部長の山本孝則先生を特別審査員としてお迎えし、11月16日(水)に最終審査を行いました。いずれも甲乙つけがたい魅力的な作品ばかりでしたが、入賞者9名を決定し、その中で優秀賞に輝いたのは、三重県・メリノール女学院高校1年生(学年は受賞当時)の上原(かみはら)由貴絵さんでした。上原さんは、何度も下絵を書いて、構想を練られただけあって、審査員全員の支持を得た力作でした(下図)。そして、応募作品から200点を選び、12月8日から26日まで、「絵手紙作品展」をユニソン会館ホワイエなどで実施しました。個性の光る一枚一枚が見る人の心を惹きつけ、力を与えてくれている

ました。審査結果の詳細については、ホームページをご覧ください。  
(人間文化学部 人間文化学科 堀 勝博)



最優秀賞の上原由貴絵さん

応募人数:285名



### 優秀賞・上原由貴絵さんの喜びの言葉

初めて京都ノートルダム女子大学主催の絵手紙の募集を見た時、あの有名な永田萌先生も審査してください、私の絵を見ていただけるということもあって、すぐに私も描いてみたいと応募することを決心しました。イラストを描くことは大好きですが、実際に絵手紙を描いたことは少なく、何を描いたらいいのかよくわからなくて、初めのうち浮かぶのは、動物ばかりでした。そして、誰宛にするのかということでも、とても悩みました。

その頃、3月に起きた東日本大震災と原発事故に遭われた人たちに向けて、学校でも募金をしたり励ましの手紙を出したりしており、私は被災者のみなさんに向けて絵手紙を書くことに決めました。

私の絵は、悲しみの雨の中でも、その雨の中で育つ幸せの花があるというイメージで描きました。「あたり前の幸せがいい」という言葉は、私たちがそれぞれの毎日を、当然のように暮らせているということは、とても幸せなことという意味を込めています。そして、絵手紙を手にとされた人が、少しでも明るく前向きな気持ちで、これからの日々の中で、幸せを見つけてくださることを願って、明るい感じに仕上げました。

この絵手紙を送る時、まさか優秀賞に選ばれるとは思いませんでしたが、実際に選ばれたという知らせを受けた時、喜びでいっぱいになりました。さらに、賞状と副賞をお届けいただいた時、永田先生からのお祝いのメッセージが書かれた作品もプレゼントされ、とても感動しました。

選んでくださった皆様に、心から感謝します。ありがとうございました。

本学の教育・研究活動を広く一般の方に知っていただく素晴らしい機会となりました。

心理学部・心理学研究科主催イベント

開催日:11月20日(日)

## こどもオープンキャンパス

心理学部・大学院心理学研究科では、地域のこどもたちに大学に来てもらい、学生とさまざまな遊びや学びを体験してもらう「こどもオープンキャンパス」を開催しました。

アリーナとその入口付近には、8つのアトラクションが設置されましたが、ご来場いただいた0歳から12歳までのこども約100名とその保護者の方には、それらを自由に回ってもらいました。62名の学生が、スタッフとしてこどもと関わりましたが、本学との協定高校および系列高校から25名の高校生もボランティアスタッフとして参加してくれました。

8つのアトラクションは、心理学部教員および学生たちによるアイデアで構成され、「手作り感がある」などと大好評でした。また全体を通して、「学生さんがやさしくしてくれた」など、学生の関わりについても喜んでいただきました。高校生の皆さんからも、「楽しい時間が過ごせた」「勉強になった」などの感想をもらいました。以下、保護者の方からいただいたアンケートの記述も交えて、イベントの概要をご紹介します。

「ボールゲーム」は、こどもがボールを投げて的をねらう遊びですが、「みなさんに盛り上げてもらってうれしそうにしていた」と親御さんは喜んでくれました。「心理学ふしぎ体験!」では、ふしぎメガネで上下・左右逆転世界を体験し、親御さんも一緒に楽しめたそうです。「電子黒板であそぼう」では、写真に自分で字や絵を書き入れて、好奇心あふれるこどもたちには、とても面白かったようです。「楽しい自然観察」では、どじょうの観察に釘付けになったこどもや、「初めは怖がっていたかたつむりに触れるようになった」こどももいました。「色と形であそぼう」では、水に浮かべた絵具を紙に写

し取りますが、「1歳児でもできた!」「とてもきれい」と、できあがった作品(コースター)を皆さん喜んで、お持ち帰りになれました。「ことばあそび」では、各種ことば遊びを、こどもたちは、学生といっしょに声に出したり考えたりして楽しみました。「音楽・リズムあそび」では、学生たちが行う「スイミーの音楽劇がよかった」ようで、親御さんもリラックスしていました。「ペープサートであそぼう」は、小さなこどもも学生たちの行う紙人形劇を、しっかりと目で追って楽しんでくれていました。

これらのアトラクションに加え、親子参加のワークショップ「オタマもカエルも十四十色ー絵本で考える親子関係ー」が行われ、絵本を素材に、こどもから見た「オヤ」のイメージについて、親子で一緒に考えました。参加された方からは、「とても勉強になった」との声をいただきました。

また、事前に募集した「こどものコトバ」(こどもが日常生活のなかで話した面白いコトバのエピソード)の展示と入選作品の発表も行われました。応募いただいた作品(50点)は、近々小冊子として発行する予定です。

最後に、皆でマルモリダンスを踊って盛り上がり、約3時間の「お祭り」は無事終了しました。ご参加いただいた方々からは、今後も続けてほしいとのご要望をいただきました。またこのようなイベントは、学生が、地域の方と交流して多くを学ぶ貴重な機会になりますので、今後も実現できるよう検討していきたいと考えています。

(心理学部 心理学科 高井 直美)

会場:ユニソン会館アリーナ  
参加人数:200名



## 未来に伝えたい 伝統食および郷土食コンテスト

本コンテストは京都ノートルダム女子大学創立50周年の記念イベントとして企画したものです。本企画のチラシや応募要項の準備にgoサインの出たのが遅かったために作品の募集期間が短くなり、多くの方たちに周知していただくことができなかったことを残念に思っています。

高校生、大学生、社会人を対象としていたため、チラシは全国の高等学校に一部ずつ送付いたしました。また学内では学生の目の留まる場所に置き、授業中にも説明を加え、希望者に配布いたしました。さらに大学のホームページに掲載いたしました。

募集期間内に41名から44点の伝統食および郷土食が送られてきました。

府県別に見ますと京都の伝統食および郷土食が17品と最も多く、次に滋賀の4品、石川、沖縄の3品、山梨、長野、岐阜、静岡の2品、千葉、福井、大阪、和歌山、兵庫、山口、愛媛、大分、鹿児島のみでした。

企画の特典として「募集要項を満たした作品のうち、優秀な作品10点に各2万円相当の商品を進呈」といたしておりましたので、応募作品のうち実際に作れる料理は作り、試食をいたしました。その結果技術を必要とし、手間のかかる料理もありましたが、多くの料理は手軽においしく作れる料理が多く、どれをとっても優劣がつけがたく、参加人数も少人数であったことを考慮し、5名の方に優秀賞として、また予算内で、参加者全員に参加賞を差し上げることと致しました。同時に全作品を掲載した冊子(レシピ集)をも送付いたしました。

今回作成いたしましたレシピ集が必要な方は申し出てください。残部がございます。

(生活福祉文化学部 生活福祉文化学科 米田 泰子)



応募件数:41名44点

## 第1回スピーチコンテスト メインテーマ「私と日本」

去る2011年11月13日(日)、本学50周年記念行事の一環として第1回京都ノートルダム女子大学スピーチコンテストが開催されました。このコンテストは、「徳と知」を兼ね備えた女性の育成という本学開校以来のミッションと、その具体的な実現形としての「ゆたかなことばを身につけた女性」の教育を長年にわたって中心的に担って来た、本学人間文化学部英語英文学科および人間文化学科、さらに言語部門と国際部門との統合によりあらたな国際教育を目指す本学国際教育センターが共催し、今後も変わらぬ本学の教育理念をあらためて広くアピールする企画として行われたものです。以下、大会の様態を簡単にご報告します。

記念大会である第1回コンテストでは、高校生を対象とした英語スピーチと日本の大学へ入学を目指す留学生を対象とした日本語スピーチの2部門を設け、「わたしと日本」という共通メインテーマのもと、独創的で、美しく力強いことばによるスピーチを公募しました。多数の応募を受けて一次審査を行い、高校生英語部門で4名、留学生日本語部門では3名が本大会に進みました。

11月13日(日)の本大会は本学ユニソン会館大会議室に多数の聴衆を集めて行われ、国際交流センター長谷川宣子主任の司会のもと、大会運営委員長である服部昭郎教授の挨拶に続き、7名の大会参加者が心のこもったスピーチを披露。また、本学学生(英語英文科3年次生加藤歩さん、人間文化学科3年次生王萃穎さん)による奨励発表も行われ、和やかな中にも非常に高いレベルでのコンテストとなりました。難航した審査の結果、審査員の期待を遙かに上

回る、力強く聴くものを惹きつけるスピーチを披露してくださった、英語部門ではノートルダム女学院高校2年生眞下香歩さん(演題:「What I Learned from My School Life in Japan」)、日本語部門では建国高等学校3年生李晶潤さん(演題:「私と日本」)が見事最優秀に選ばれ、また英語部門審査委員特別賞として明浄学院高等学校2年生の河邊由樹さん(演題:「Changes in my life」)が表彰されました。大会後、社会学習センター2に場所を移してささやかな茶話会が開かれ、大会参加者が健闘を称え合い、また参加者と本学の教職員、学生とが和やかに歓談をして、第1回のスピーチコンテストは幕を閉じました。(文中の所属・学年はコンテスト当時)

(人間文化学部 英語英文学科 小山 哲春)



会場:ユニソン会館大会議室  
出場人数:英語部門4名、日本語部門3名、奨励発表2名

カトリック教育センター主催 「第9回・土曜公開講座」 開催期間:10月1日(土)～11月26日(土)

## 今を生きるためにキリスト教の思想・文化にふれる

2011年度も「今を生きるためにキリスト教の思想・文化にふれる」というタイトルのもと、標記講座が開催されました。開催期間は10月1日(土)～11月26日(土)。開催場所はユニソン会館社会学習センター。1回80分の講座が14回行われ、受講者数は、少ない時で10数名、多い時で60名位、合計で延べ315名でした。京都新聞社後援講座であり、京の府民大学対象講座でもあります。個別のテーマ及び講師は以下の通りでした。

- (1)菅井啓之(心理学部教授)「神と自然ーキリスト教・神道・仏教ー」
- (2)Fr.中川博道(カルメル修道会司祭)「現代において、信じるということーアブラハムの信仰と現代ー」
- (3)宮永泉(カトリック教育センター教授)「死の哲学IXーキリスト教的死生観(続き)ー」
- (4)東朝子(カトリック教育センター特任准教授)「聖母賛歌II」
- (5)蒔苗暢夫(副学長)「愛のかたちV」
- (6)Sr.中里郁子(カトリック教育センター講師)①「『ヘブライ人への手紙』における救い」
- ②「聖パウロによる《キリスト者の自由》」
- (7)久松英二(龍谷大学

教授)「東方神秘思想」。

2011年3月11日(金)に発生した東日本大震災は、地震と津波による被害(大天災)に原発による被害(大人災)が重なった、日本全体を転覆させる出来事でした。大勢を立て直すには、根本的に言えば《科学と宗教》に拠るしかないと思われま。だとすれば、しっかり宗教研究した結果をこのような形で公表することも、被災者支援につながるのではないか。2011年度はそのような思いを抱きつつ講座を開催しました。



(カトリック教育センター 宮永 泉)

会 場:ユニソン会館社会学習センター1  
参加人数:14回合計315名

人間文化学科・人間文化専攻主催 秋期公開講演会 開催日:10月8日(土)、10月22日(土)、11月19日(土)

## 芸術の秋に学ぶ ロマン派音楽の諸相

2010年はショパンとシューマンの、2011年はリストのそれぞれの生誕200年で、一昨年、昨年と2年つづけてロマン派音楽の記念の特別な年でした。この公開講演の中心は、今日も多くの人に好まれているロマン派音楽の創作の裏側にある、これらの作曲家たちの人生あるいは生き方に一般とは少し違った角度から光を当てることにありました。それは、彼らの音楽に潜むそれぞれに固有の想念が、いかに彼らの生きた時代や個性、思想・信条から醸成されたものであること、また、いかにそれが実際の響きとして彼らの魅力ある音楽として表されていったかを明らかにすることでもありました。この公開講座では、これらの作曲家の実際の楽曲を聴いていただきながら分析・解説し、彼らの音楽の響きにまつわる講演の内容を、来聴の方々にできるだけ耳でたしかめていただくようにいたしました。この3回シリーズそれぞれの題目と内容は以下のとおりです。第1回目は「苦悩のロマン主義者シューマン」として、シューマンの音楽思想と音楽の関係を論じ、講演に先立って名曲喫茶「柳月堂」の創業者のご子息、陳壯一氏と元KBS京都放送プロデューサー



亀村正章氏に、京都のクラシック名曲の受容の歴史について貴重なお話をいただきました。第2回は「ショパンの音楽ーシューマンの盟友の音芸術」として、ショパンが生きた時代や社会の状況と彼の音楽との連関を、ショパンの研究者で筑前琵琶奏者としても国内外で著名なシルバン・ギニャール氏とのコラボレーションでお話いたしました。そして第3回「鍵盤の王者リストーその人生と音楽」では、リストが生きた人生そのものと人となりの現れとしての彼の音楽を論じ、後半のミニコンサートでは本学人間文化学科と大学院人間文化専攻で音楽学を修めたピアニストの梶谷琴恵さんに、リストの名曲3曲を弾いていただきました。以上の講演部分の内容は、人間文化学科の「ブレット7」として近刊の予定です。



(人間文化学部 人間文化学科 小川 光)

第1回 会 場:ユニソン会館社会学習センター1  
参加人数:30名  
第2回 会 場:マリア館ガイスラーホール  
参加人数:20名  
第3回 会 場:ユニソン会館音楽練習室  
参加人数:50名

## 「第1回音楽祭」～伝えよう歌声で～

2011年度、本学は創立50周年を迎え、50周年記念事業の学生イベント企画として、歌声で人の優しさや温もりを伝え、人と人の絆を深めるという趣旨により音楽祭を実施することになりました。

「第1回音楽祭」は、ND祭実行委員会の協賛を得て、大学祭期間中の10月30日(日)にユニソン会館大ホールに於いて開催しました。司会者にお迎えした月亭八光さんの軽妙な司会のもと、応募した本学学生・教職員5名以上の4団体「ギターサークル」、「女声合唱団/女帝としもべたち」、「京炎そでふれ輪舞」、「N.D.B.G./ノートルダムベストグループ」が1～2曲をエントリーし出場され、各団体が練習を重ね、心を込めた歌声が会場に響きわたりました。



また、大阪・京都を中心にライブ活動されているゲストの「モーニングビートルズ」の方にビートルズメドレーを熱唱いただき、会場内の全員がビートルズの音楽の素晴らしさを再確認しました。最後は、堀先生、小川先生、学生のヴァイオリン、ピアノ、フルートの三重奏によるエルダーの「愛の挨拶」で幕を閉じました。

審査委員の藪内学長、東先生、今西ND祭実行委員長長の審査の結果は、藪内学長から各団体に特別賞が授与され、総評をいただいた各団体は、たいへん励みとなりました。

今回は、40名の方が「第1回音楽祭」に出場しましたが、来年度も更に多くの学生団体、教職員が参加できる大学行事として開催される予定です。

学生の皆さん!是非、今年の「第2回音楽祭」に参加して、人と人の絆を深め、そして充実した大学生活を送ってください。

(学生部 学生課)

会場:ユニソン会館大ホール  
参加人数:40名

## 北山キャンパス総合整備計画の完成予想模型ができあがりました。

現在進行中の北山キャンパス総合整備計画が、立体的にわかるキャンパス全景の模型ができあがりました。また、現ユージニア館の跡地に建設される新館の、各階にどのような施設が作られるのかが、具体的にわかる、詳細な模型もあわせて設置されています。

通常は、ユージニア館玄関に設置されていますので、ぜひみなさまご覧ください。





## 50周年記念事業では、学生も積極的に参加しました。

50周年記念式典の司会をはじめ、ホームカミングデーでの受付やパフォーマンスの披露、また、イベントを企画したり、公開講座やイベントではボランティアスタッフとして活躍するなど、多くの場面でND生が活躍しました。

### 50周年記念式典 司会を担当

英語英文学科 2011年3月卒業 園城 麻央

4年次生という大学生最後の年に大学創立50周年の特別な機会に恵まれ、記念式典で司会をさせていただいたことはかけがえない体験でした。そして私にとってノートルダムで小学校から大学まで16年間学ばせていただいた最後の年でもあります。今日ま



で多くの方々のご指導と祈りに支えられ、さまざまな機会をいただいで成長できましたことを深く感謝しております。

司会を勤めさせていただくにあたりアナウンスに関する知識がなかったのですが、一番大切なことはご来賓である大学の創立、発展の為に尽力いただいた方々、卒業生の方々、故人そして当日会場にはいらっしやらなかった方々に対して感謝の気持ちを私が発する言葉から少しでも伝えることが使命だと思いました。前日は力を出し切れるようにと願い祈りました。

記念式典終了後にお褒めの言葉をたくさんいただきとても嬉しく達成感がありました。これもいつも私の周りにはシスター方や先生方、職員の方々がいらっしやったこと、そしてご指導いただいたおかげです。

後輩の皆さんには50年という長い歳月で多くの先輩方が学び巣立っていかれたノートルダムという伝統ある女子のためのカトリック大学ならではの素晴らしい環境を最大限に活かし将来の自分の為に大学の良いところを吸収して日々の時間を大切にしていってほしいと願っています。ありがとうございました。

### 「こどもオープンキャンパス」学生スタッフとして参加

心理学科 2011年3月卒業 高橋 祐子

京都ノートルダム女子大学創立50周年記念行事として、心理学部では2011年11月20日(日)に「こどもオープンキャンパス」を開催しました。このイベントには、スタッフとして1～4年次生の心理学部の学生や心理学研究科の院生も参加しました。当日は幼児から小学生の子どもたち約100名、保護者の方も合わせると総勢200名以上という多くの方々が訪れました。

私はこのイベントの開催を先生からお聞きし、多くの子どもたちと触れ合うことができるよい機会だと思い、参加しました。私が担当したブースは「電子黒板であそぼう」でした。内容は撮影した写真をスクリーンに映し、そこに電子黒板用のペンを使って自分なりに写真をデコレーションするというものでした。ここで出来上がった写真はお客さんにプレゼントしました。このブース以外にも7つのブースが設けてあり、子どもたちは配布されたスタンプカードを片手に、ブースを楽しそうに回っていました。この「こどもオープンキャンパス」では、子どもたちの初めて見るものに興味津々な姿や、楽しんでいる姿を見ることができ、私も大いに楽しむことができました。イベントの最後は、流行したマルモリダンスをみんなで踊ってフィナーレをむかえました。

最後に、この「こどもオープンキャンパス」は、子どもたちや保護者の方々とのふれあいの場だけでなく、学部内でのさまざまな年次の学生の交流の場にもなっていたと思います。普段の講義ではなかなか他年次生同士の交流はありませんが、このような大きなイベントは、参加することを通して学生同士の交流を深められるとても貴重な場であると感じました。



## 2011年度 研究プロジェクト報告会

2012年2月15日(水)・21日(火)・22日(水)



2011年度研究プロジェクト報告会を、2012年2月15日、21日、22日の3日間にわたり、本学ユニソン会館社会学習センター1において実施した。2010年度研究一般助成個人研究3件、同共同研究2件、同萌芽研究3件、同学術出版1件、2009年度研究一般助成萌芽研究1件、計10件の研究発表であった。3日間とも40名前後の参加者があり、多彩な研究発表にフロアからの質疑応答も活発であった。発表後、演者を囲んでの意見交換の場面もみられた。学内外の共同研究への発展など、研究の輪が広がることを期待したい。

(研究活動推進委員会 委員長 中村 久美)



### 2010年度「研究一般助成 萌芽研究」

#### 大学生の英語学習に影響を与える要因の分析:第二期

—学習動機、学習環境認知、および大学への適応の観点から—

人間文化学部 英語英文学科 小山 哲春



本研究は2007年度に行った同研究を継承したものであり、当時の1年次生の追跡調査を含む、複数年にまたがる調査の報告である。特に(a)学習動機、(b)学習環境に関する否定的な認知(反動機)、および(c)大学生活に関する情意要因(大学生活への適応、等)に焦点を当て、修学パフォーマンスとこれらの要因間の関係の分析を行った。

### 2010年度「研究一般助成 個人研究」

#### 高齢者の食物選択動機の解明と動機項目の抽出

生活福祉文化学部 生活福祉文化学科 加藤 佐千子



人は、「食物選択動機」という認知された要因に影響されて食物選択の意思決定をしている。食物選択動機のタイプを自分自身で把握できれば、自ら陥りやすい食物選択傾向を把握でき、ひいては健康維持増進に役立てられる。そこで、本報告会では、高齢者の会話分析をもとに食物選択動機用語の抽出を試みた結果を報告した。

### 2010年度「研究一般助成 個人研究」

#### 対人認知場面における擬態語性格表現の特徴と機能

心理学部 心理学科 向山 泰代



“おっとりした人”“さっぱりした人”など、日本語の性格表現には多くの擬態語が含まれている。発表者らは、感覚的・イメージ喚起力が強い・曖昧・多義的等といわれる擬態語の特徴に着目し、性格表現における擬態語の機能や特徴について検討してきた。発表では、近年開発した「擬態語性格尺度」を中心に、研究成果を紹介した。

### 2009年度「研究一般助成 萌芽研究」

#### 心理療法における「語り」の様態と「わたし」のあり様の関連性について

心理学部 心理学科 三好 智子



心理臨床では様々な語りの内容だけでなく様々な「語り方」に出会う。そうした個々に多様な「語り方」をどのように聴いていくのか、という問題意識のもと、描画表現を手掛かりに、「語り方」には語り手の世界観がどのように反映されているのか、そしてそれをどのように聴いていくことができるのか、理論的検討および調査資料に基づく検討を行った。

2010年度「研究一般助成 個人研究」

## フォークナー文学と大衆消費社会

人間文化学部 英語英文学科 山本 裕子



本発表では、フォークナー作品における「アメリカの葬儀様式」の表象を手掛かりとして、1920年代南部における近代化の不均衡な発達と南部社会の大衆消費社会への転換を読み取る。最終的に、フォークナーの作家的想像力が1920年代の大衆消費社会におけるアメリカの想像力と密接な関わりがあることを示唆したい。

2010年度「学術出版助成」

## 中原中也の時代

人間文化学部 人間文化学科 長沼 光彦



助成出版『中原中也の時代』は、中原中也の詩心（詩の個性）がどのように形成されたのか、その初期の活動を中心に考察したものである。破天荒な詩形式のダダイスムと、典雅な詩語の象徴主義との、二つの異なる詩風を、常に変化する生の表現として、矛盾なく結びつけたところに中原の個性の核がある。

2010年度「研究一般助成 萌芽研究」

## 知的障害のある人たちが身近な地域で安心して暮らせるための支援に関する研究

—犯罪被害・加害状況に陥ったときの対応を中心に—

生活福祉文化学部 生活福祉文化学科 酒井 久美子



本研究では、知的障がいのある人たちが地域で安心して暮らせるために、特に犯罪との関連に視点を置き、逮捕から裁判に至るまでのプロセスで家族や支援者にできる支援を検討した。知的障がいのある人たちに対する理解促進、支援に向けて取り組んだハンドブック作成、研修会開催、アンケート調査について報告した。

2010年度「研究一般助成 萌芽研究」

## Attitudes towards Global Awareness: A comparative study between Japanese and American Students

国際教育センター Derek Eberl



The importance of developing student global awareness has become increasingly recognized in education programs around the world. Educators and curriculum designers have realized that students need a greater understanding of the world around them in order to function effectively in today's global society where there are greater chances that they will be involved with, and interacting with, people from different countries and cultural backgrounds. One of the key elements of global awareness is the shaping of attitudes.

2010年度「研究一般助成 共同研究」

## 居住移行した高齢者のライフスタイルとその支援環境に関する研究

生活福祉文化学部 生活福祉文化学科 牛田 好美



本研究は、比較的自立度の高い高齢者が、その将来設計から高齢者向け住宅または施設への居住を選択した場合に注目し、協力を得られた1施設に対して、彼らの生活設計や生活意識を把握する調査を行った結果を報告した。本調査は、最終的な課題の中で予備調査に位置づけられるものである。

2010年度「研究一般助成 共同研究」

## ICTを利用し学生が協調・自律した学びを行うための授業改善の研究

心理学部 心理学科 神月 紀輔



本研究は、4科目を中心に、授業実践を進めながら行った。実践では、学生が模擬授業を行う際に、デジタルカメラの動画撮影機能を用い、自らの授業を撮影することにより、自ら反省点を発見するとともに、動画をディスカッションの材料とし、自己評価・相互評価を促進する手立てを行うなど、このような方法による授業は、学生からの評価もおおむね好評であり、自己評価につながる取り組みになったと考える。しかし、この取り組みは全学的に広げる必要があり、今後研究を続ける必要がある。

## 退職の辞

前 人間文化学部 英語英文学科 教授 松井 千枝



1975(昭和50)年4月に本学に専任講師として迎えられ、50周年という記念の年に定年になるまで、37年間教育・研究に携わってまいりました。それ以前の非常勤講師時を含めると40年以上となり、初代シスター・ユージニア学長時代から長きにわたり勤めてまいりましたが、あっという間に過ぎ去った感がいたします。振り返ってみますと、私の英語学ゼミの卒業生だけでも572名になります。

今、どの大学でも学生の学力低下が言われていますが、学力とは、単に知識のことではなく、「学ぶ力」いわば学習意欲、研究意欲の低下なのです。いかにカリキュラムを改善しても、学生の知的好奇心を刺激しなければ真の実力は身につかないのです。私自身やる気を起こさせ感動させる授業をしてきたのか、はっきりYesとは言い切れません。大学の使命は学生に物事の深さを味あわせ、人間としての教養を身につけさせることです。「教育とは教えられたことをすべて忘れ去った時に残るもの」と思いますので、教員の人間性を含め、まるごとすべての自分が学生にさらされるわけです。「先生に出会えてよかった。」と一人でも多くそういってくれる学生がいましたら、幸せな教員人生といえましょう。

本学では教職員・学生の皆様に支えられ本当に楽しく過ごさせていただきました。これからの人生も老木でなく若竹の如くのびのびと過ごしていきたいと思ひます。今までお世話になりました教職員全員の方々、卒業生・学生の皆様に感謝申し上げますと共に、本学が一層発展し、卒業生の心の拠り所となりますように祈念いたします。

## 退職の辞

前 カトリック教育センター 准教授 東 朝子



私は非常勤時代を含めてちょうど30年間、本学で働かせていただきました。2代目学長Sr.M. マイケルの時代からです。Sr.M. マイケルは私の高2、3の時のホームルーム担任でした。他にも女学院時代にお習いしたSr.ヴィヴィアン、Sr.テレサマーガレット、Sr.M. ジョセフ、Sr.M. アン等、そしてシスター以外にもたくさんの顔なじみの先生方が本学にいらっしゃいました。

制服は当初、茶色のスーツに淡茶のブラウス、校章のペンダントだったのが、儀式の時だけ着用する時期(2~3年間だったと思います)を経てすっかり制服廃止になってしまいました。

私が担当した科目の一つ「宗教音楽」は、当初「科目外音楽」と呼ばれ、必修にも拘らず単位が与えられないという科目でした。それがようやく年間で1単位ですが、単位が与えられるようになりました。また「宗教音楽」は1年次と4年次の両方で必修でしたが、4年次での必修はなくなり選択科目となりました。伝統的に大切にされてきた本学での音楽教育は、「音楽を通してキリスト教を伝える」という大切な役目を担っていたと思います。全学生が学歌を歌える珍しい大学と言われますが、これは誇らしいことではないでしょうか?近年、音楽の授業が減ってきたのは残念なことです。今後増えることを期待しております。

授業の他には、音楽個人レッスン(声楽)担当、2005年からキャンパスミニスター、そしてNDクリスマスも長年関わらせていただきました。

学生数や学生気質の変遷、学科改組など、本学の歴史のかなりの部分(しかも激しい変化を伴う)を体感してきました。キャンパスミニストリー室に集う学生と接する中で、学生たちの抱える問題や苦勞も時代を反映しています。心のオアシスたるキャンミニ室は重要、不可欠な部署です。

引き続き皆様が、NDスピリッツを継承し、世の光となって社会で活躍する人材を育ててくださるよう、願っております。

最後に、NDファミリーの一員として思い出多い日々を過ごさせていただいたことに、心から感謝致します。

## 入胎経の原典的研究

科学研究費助成事業 科学研究費補助金(基盤C)採択(平成21年度～平成23年度)



研究代表者

ロバート クリツァー

人間文化学部 英語英文学科

### The Garbhāvākraṅtisūtra: a Buddhist Embryological Text

One of the main subjects of my research for the past several years has been the Buddhist embryological sūtra, the Garbhāvākraṅtisūtra (入胎經). The sūtra is centered around an account of the thirty-eight weeks of gestation, and it includes, as well, descriptions of the suffering experienced by the newborn infant. The text exists in several Chinese and Tibetan translations of various versions; the one that I have been studying is found in the Tibetan vinaya (律藏) and is the longest extant version. For the past three years, I have been supported by a grant from the Japan Society for the Promotion of Science. During this time, I have made considerable progress in my research, and below I describe some of my activities during the period of my grant.

In September 2009, I made a presentation at the 11th Seminar of the International Association for Tibetan Studies in Vancouver, British Columbia, in which I discussed some of the differences among the various versions of the text. An article on the same subject will be published in the forthcoming issue of the Annual Report of the International Research Institute for Advanced Buddhology (Soka University).

In April 2010, I gave another paper, entitled "Affliction and Infestation in an Indian Buddhist Embryological Sūtra" at the annual meeting of the Association for Asian Studies in Honolulu. This paper discusses the passages in the sūtra concerning parasites, demons, and illnesses that afflict the newborn infant. Here is an illustration of one of these demons, named Śakunigraha, from an Indian medical text:

An extended version of this article will be published in a forthcoming Festschrift for Professor Lewis Lancaster.

Finally, I traveled to Paris in December of 2011 in order to check some readings of the Peking edition of the sūtra that are illegible in the readily available photographic version published by Ōtani University. The Bibliothèque Nationale has a beautifully legible copy of a slightly more recent printing of the Peking Kanjur, and by examining it, I was able to resolve a considerable number of problems.

I have now finished and revised a critical edition and English translation of the text, as well as extensive introductions to both, and I am currently preparing the manuscript for publication.



## 大学生の学業遂行に至る学年別因果モデルの構築

—大学生生活要因・授業要因からの検討— 科学研究費助成事業 科学研究費補助金(基盤C)採択(平成21年度～平成23年度)



研究代表者

松島 るみ 心理学部 心理学科

研究分担者

尾崎 仁美 心理学部 心理学科

近年、大学の多様化に伴い、大学生の多様化、学力や学習意欲の低下が指摘されています。大学生の学習意欲や学業遂行に及ぼす要因についてはさまざま考えられますが、大学生の文脈から、その要因を縦断的に追った研究は多くありません。

そこで、本研究では、大学生の学習意欲や学業満足感等、学業遂行に影響を及ぼす要因について、授業そのものの要因(授業要因)と授業の背景にある学生側のさまざまな要因(大学生生活要因)の両要因を想定しました。授業要因としては、大学授業観や入学後の授業・学業に対する意識のズレを問うリアリティショック、大学生生活要因としては、大学適応感、大学生活における重視活動等を取り上げ、3年間で7回の質問紙調査を実施して検討を行いました。

分析の結果、大学生の学習意欲や学業満足感に影響を及ぼすのは、講義内容の充実感等、必ずしも学業に関する活動だけではなく、授業における他者との意見交換や交友関係の良さ等、学業以外の要因もまた影響していることが明らかになりました。さらに、大学生活の過ごし方や将来に対する意識についても、大学生の学習意欲を左右する要因となり、学年により異なる傾向がみられることが示唆されました。

今後も、授業要因のみならず、大学生生活要因を含めて、より幅広い視点で大学生の学びの成果や学業遂行に及ぼす影響を検討することを課題にしたいと思います。

## 2011年度ノートルダムクリスマス

開催日:2011年12月19日(日)

ノートルダムクリスマスは、現在のように3校合同行事として行うようになって17回目となりました。3年ほど前からシナリオもきれいに整えられ、今の形に定着しました。ただ、この会場で、そしてまた3校合同行事ということで、いくつか困難な点があります。

まずオーケストラの配置が問題になります。女子校では珍しい女学院のフルオーケストラですが、大所帯のためスペース確保が難しいこと、また照明装置が劇場のように完備されているわけではないので、オーケストラ奏者全体を照らすことができないとか、正面から照らすと眩しくて楽譜を見ることができないので困る、などです。会場の配置については、今回はじめてナレーターや共同祈願者の位置を上手に移動し、オーケストラと合唱隊のみを



下手にまとめることにしました。照明については、譜面灯を備えることを検討しています。

一つの学校内で行われる行事と異なり、3校合同で行うため、リハーサルに1回しか時間を取ることができないという困難さもあります。スムーズに進行できるかどうか、毎年ピクピクしているのが正直なところですが。

しかし、最も印象深く参加者の目に焼き付いているのは、なんと言っても会場を埋め尽くすろうそくの明かりです。キリスト誕生が、「暗闇にもたらされた光」で象徴されます。キャンドルは欠かせない小道具です。

音楽を大切に教育の中で育てて来た本学の特徴を活かし、小学生から大学生まで一体となって行うこの行事はすばらしいものです。先に述べたいいくつかの不都合をなんとか乗り越え、ぜひともずっとこの伝統行事を続けて欲しいと思います。

多くの女子大生はクリスマスの本当の意味を知りません。知っている学生も、このイベントに参加することによってクリスマスの本当の意味を思い起こす良い機会となっています。神の愛に応えてわたしたちにできる小さな愛の事業(バザーや募金)が、ネパールの子どもたちの教育に、そして東日本大震災他の被災地支援に活かされることを祈っております。

(ノートルダムクリスマス委員 東 朝子)

## 学生支援推進プログラム「キャリア形成データベースを利用した社会人基礎力養成プログラム」成果報告会

開催日:2012年3月1日(木)

英語英文学科では、2012年3月1日(木)に学生支援推進プログラム「キャリア形成データベースを利用した社会人基礎力養成プログラム」の成果報告会を開催いたしました。当日は、京都大学高等教育研究開発推進センター溝上慎一准教授に、学生生活アンケート調査を行っていただいた結果を基に「英語英文学科の学生は成長しているか。学生支援の効果は見られるかー3年間の追跡調査アンケートの結果報告ー」と題した講演、及び、京都工芸繊維大学アドミッションセンター山本以和子准教授に、「女子大学における現代型キャリア開発」と題した講演を行っていただきました。また、数多くのキャリア形成講座をご担当いただいた有限会社學匠代表取締役梶谷康則先生、英語英文学科准教授小山哲春准教授、同じく英語英文学科山本裕子専任講師に本プログラムの概要及び個別の成果についてご報告いただきました。また当日は、日本学生支援機構職員の方を始め、学内外から多くの方にご出席いただき、無事終了することができました。

この成果報告会に先立って、2011年12月、独立行政法人日本学生支援機構主催の意見交換会において、本学が、東海・北陸・近畿地区代表の事例発表4大学の中の1校に選出され、高く評価されたことは大いに励みになりました。

3年前この仕事を始めるに当たっては、専任教員の我々は、日常の仕事だけでも大変な中、全て手探り状態で、途方に暮れながらも取組を進めていったことが思い出されます。皆様のいろいろな形でのご支援のお蔭でなんとか無事に完成し、一定の成果を上げることができました。心よりお礼申し上げます。

(人間文化学部 英語英文学科 教授 取組代表 須川 いずみ)



## 2011年度 学生表彰式

開催日:2012年3月9日(金)

2012年3月9日(金)ソフィア館5視におきまして、第48回卒業生成績優秀者並びに2011年度学長奨励賞の表彰式が執り行われました。成績優秀者は各学科において最も優秀な成績を修めた学生1名が、学長奨励賞は学術、芸術、課外活動、社会活動等に顕著な成果をあげ、本学の名誉を著しく高めたと認められた学生を表彰するものです。

表彰式には学科の先生方や職員が多数参加し、数内学長から受賞者の功績を称える言葉と益々の活躍を期待する励ましの挨拶がありました。表彰を受けた学生は次の方々です。



### 【成績優秀者(2011年度4年次生)】

人間文化学部	英語英文学科	櫛原 梨沙
人間文化学部	人間文化学科	上原 百合子
生活福祉文化学部	生活福祉文化学科	後藤 ひとみ
心理学部	心理学科	坪島 和美

### 【学長奨励賞】

＜団体＞キャリア形成 (紅葉の秋!大原フェスタを楽しく企画)ゼミ	7名
＜団体＞学生会執行部会「わくわく大作戦!」	7名
＜団体＞ND祭実行委員会	19名

### 【特別賞(2011年度4年次生)】

＜個人＞創立50周年記念式典 司会担当 人間文化学部 英語英文学科 園城 麻央
--

## 第48回卒業式・第9回学位授与式

開催日:2012年3月10日(土)

第48回卒業式・第9回学位授与式が、3月10日(土)午前10時より、多くの保護者のみなさまにもご参列いただき執り行われました。

式典では、卒業生・修了生一人ひとりに数内総学長から証書が手渡されたのち、数内総学長の式辞、カトリック京都司教区パウロ大塚喜直司教様のご祝辞、学部卒業生・修士課程修了生代表の謝辞が述べられました。その後、大塚司教様司式による聖体賛美と祝福式が行われ、参加者全員でこの佳き日を迎えられることを感謝しました。

学部生403名、大学院生11名の414名が卒業し、本学の卒業生並びに修了生の総数は13,487名となりました。



### 2011(平成23)年度卒業生・修了生

<b>卒業生</b>		
人間文化学部	英語英文学科	122名
	人間文化学科	57名
生活福祉文化学部	生活福祉文化学科	73名
心理学部	心理学科 発達心理専攻	15名
	学校心理専攻	63名
	臨床心理専攻	73名
<b>修了生</b>		
大学院人間文化研究科	応用英語専攻	1名
	人間文化専攻	2名
心理学研究科	発達・学校心理学専攻	1名
	臨床心理学専攻	7名



## 「東日本大震災被災者支援ボランティア」実施報告

3月4日(日)から9日(金)まで、カリタスジャパン、仙台教区サポートセンターが展開する釜石ベースと米川ベース(支援先は南三陸町)の2ヶ所に生活福祉文化学部の4年次生2人、3年次生7人がそれぞれのベースに引率教員1人とともに分かれて支援に入りました。京都からの移動は新幹線や在来線乗り継ぎ、高速バスと在来線バスを乗り継いで8時間を超える移動です。到着地のどちらのベースも震災津波被害では大打撃を受けた町です。焼け野が原のような街並みの跡地に私たちは絶句でした。しかし、同時に何とか力になりたいという気持ちも高まっていました。釜石ベースは主に教会でのカフェや移動カフェに仮設住宅での被災者との話し相手など、被災者の方々と対面して悲しみや心の痛みに寄り添います。米川ベースでは野外でのがれき撤去や漁業支援としての漁網修理など、直接被災者との出会いは少ないのですが、間接的には被災地の復興支援につながっていくのです。全国各地から集まっているボランティアの人たちとの寝食を共にしながらの交流や情報交換も大切です。少しでも被災地の人たちの手助けをしたいという意思、意欲をともにする全国の仲間たちとの活動には力が入ります。被災地の人たちの私たちボランティアに対する感謝のお言葉とともに「私たちは義捐金や物資が必要なのではなく、被災地の復興に尽力してくださ

る人たちの力です」という言葉が忘れられません。小さな一歩の支援かもしれませんが、私たちの心には確かな共生と協働の意欲が生まれました。

生活福祉文化学部 三好ゼミ 2011年度3年次生・4年次生一同  
引率教員 生活福祉文化学部 三好明夫  
生活福祉文化学部 佐藤 純



## 石の上にも3年 -スクールインターンシップと教職指導の活動を振り返って-

2011年12月に、過去3年間の英語英文学科の担当科目『教材作成演習』の公立小学校に対するスクールインターンシップの活動が、大学教科書出版の成美堂のホームページに特集として掲載されました。今後の教職課程の小中高校スクールインターンシップに参加の学生や院生達の励みになればと思っています。

成美堂 [https://www.seibido.co.jp/kids/gather/gather2-1\\_3.html](https://www.seibido.co.jp/kids/gather/gather2-1_3.html)

振り返れば、学生達との活動は、何事も石の上にも「スクールインターンシップ」3年、教職課程の学生と卒業生の現職幼小中高や私塾の先生との研修会「教育を考える橋の会」15年、ハンドベル部顧問は10年目を迎えます。

昨年は9月から11月まで、月曜日に大阪市立苗代小学校(前大阪市教育委員会の国際理解教育部長:大槻校長先生)へ、主に1-2年生の英語/外国語活動の研究授業の指導助言の依頼を受け出掛けました。先生方は、研究授業を積極的に色々な工夫をされ競って楽しく実践され、当然の事ながら授業後のミニ講演と合評会は極めて活発な展開になりまし

た。また大阪教育大学附属平野小学校にも教え子がいて同様のスクールインターンシップを展開してきております。

これら全ての活動を、「Learning and Practice for Service!」「社会奉仕の為の学びと実践」の大学教育のミッションとして捉え、学生達にとって「大学が学びの場だけではもの足りない」と、ゼミの学園祭のチャリティーやハンドベル部の福祉施設での演奏、卒業生現職教員との宿泊研修会「教育を考える橋の会」等の社会的・地域貢献活動として展開してきています。

その際、必ず「先ずは自分から」、「先ず隗より始めよ」と、学生達を巻き込んで全人教育の活動の一環であると確信し実践してきております。「何事にも前向きに努力を重ねれば楽しく成るし、疲れが爽やかになる」経験を学生達と自分も実践したいし、これこそライフキャリア教育の「生きる力」を身につける教育実践だと思っております。ご理解ご協力を頂いた皆様方には本当に感謝致します。

(人間文化学部 英語英文学科 教職課程 橘堂 弘文)



## 教員著作



### 鷲見朗子訳『百一夜物語 –もうひとつのアラビアンナイト』

河出書房新社／2011年12月発行(本文350頁、解説・注を含め393頁)

『百一夜物語』は『千一夜物語』(別名『アラビアンナイト』)の流れをくむ、アラビア語で表現された物語集です。『千一夜物語』が東方アラブ世界(エジプト以东の東アラブ地域)で流布していたのに対し、『百一夜物語』は西方アラブ世界(チュニジア、アルジェリア、モロッコを含む北西アフリカ)とアンダルス(イスラーム支配下のイベリア半島)で流布していたとされています。

『百一夜物語』は『千一夜物語』と導入的な枠となる物語(枠物語)の内容が類似しており、2、3の物語が共通しています。しかし、『百一夜物語』は『千一夜物語』とは別個に伝承された作品だと考えられています。両物語集の詳しい関係は明らかではありませんが、『百一夜物語』を『千一夜物語』の姉妹編とみなしている研究者もいます。

本書はチュニジアのアラブ文学者であるマンヌーバ大学マフムード・タルシューナ名誉教授が校訂した『百一夜物語』を底本にした本邦初訳本です。(タルシューナ教授がご自身の校訂本に用いた写本は1776年に書写されたものです。)百一夜にわたって語られる17の物語が収録されており、ここでは、美青年、美しい姫、性悪女と貞淑な女、不思議な宮殿、空飛ぶ木馬などが現われる独特の空想世界が繰り広げられます。このアラブの物語世界をぜひみなさんに読み味わっていただければと思っています。

人間文化学部 人間文化学科 鷲見 朗子

\*本書は文部科学省科学研究費基盤研究(A)「欧米・日本におけるアラビアンナイトの受容と中東イスラーム世界イメージ形成」(2002年-05年)、同基盤研究(S)「アラビアンナイトの形成過程とオリエンタリズムの文学空間創出メカニズムの解明」(2006年-10年)(両研究ともに研究代表者は国立民族学博物館西尾哲夫教授)の研究成果の一部です。



### 『人間関係の心理と支援 –グループ・アプローチのすすめ–』 ＜看護・介護・保育の心理学シリーズ 第3巻＞

新曜社／2011年12月発行／2,310円／村尾泰弘編

「第3章 保育に求められる人間関係の理解と対応 –保育の最前線から」

「第4章 3 「いま、ここ」でのかわり –Tグループ」

看護・介護・保育という領域における対人援助場面では、個人を対象とするとともに、集団の持つ力を活用していくグループ・アプローチも広く活用されています。そこで、本書は、看護師や介護福祉士、保育士といった専門職やこれらの資格取得をめざす人対象に、グループ・アプローチを紹介したものです。

この中で、私は、第3章で、保育所保育に焦点を当て、保育という営みにおける人間関係をどのように理解し、対応していくかを考えていきました。ここでは、人間関係というものが、遊びをはじめとした日々の生活のあらゆる場面に埋め込まれていることを明らかにしました。そして、子どもが豊かな人間関係を育むために保育者は「関係に生きる存在」かつ「関係に働きかける存在」として援助実践を行う存在であるとしました。

さらに、本書は、第4章でグループ・アプローチの諸技法の理論的枠組みについて解説しています。そこで、Tグループという小集団でのグループ・セッションを中心とした教育トレーニングの解説を担当しました。Tグループの特徴は、「いま、ここ」での関係の中で生きることを通して、自己理解や自己受容を深め、他者を共感的に理解する能力を高めるとともに、グループの関係性についての理解を深めていくというものです。こうしたグループ体験は対人援助者にとってこれからますます大切になっていくでしょう。

このTグループに興味を持たれた学生さんは「Tグループ HCL」で検索を。私が関わっているTグループのホームページが出てきます。

生活福祉文化学部 生活福祉文化学科 山本智也

## 第11回カトリック女子大学総合スポーツ競技大会

2011年11月26日(土)・27日(日)

バドミントン部部长 人間文化学科 3年次生 八尾 姫美子

第11回カトリック女子大学総合スポーツ競技大会が、去年の11月26日(土)・27日(日)の二日間にわたり聖心女子大学で行われました。私は去年の大会では先輩方の応援で試合に出場することはなく、初めて今大会に出場しました。バドミントン部は、1年次生と2年次生だけで結成されています。みんな、とても緊張していましたが、結果を残そうという強い気持ちがありました。

一日目のノートルダム清心女子大学との試合は、初日ということもあり緊迫した雰囲気でしたが、自分たちの力を出すことができ全試合に勝つことができました。二日目の試合は、白百合女子大学と聖心女子大学との対戦で、最初に試合をした白百合女子大学とは接戦でしたが、あと一歩というところで負けてしまいました。次の聖心女子大学とは、心機一転し臨んだのですが負けてしまい今大会の結果は3位となりました。みんなが楽しそうに試合をしている姿や悔しがっている姿、一生懸命な姿、また応援している姿は、普段の練習とはまた違う雰囲気があり、全員が持っている力を最大限に出せたと思います。

また、懇親会では、和気あいあいと食事をするのはとても楽しく、競技種目の違う選手たちと交流を深めることができました。また、聖心

女子大学のコーチの方にフォームや打ち方の指導をしていただき、自分の可能性を見出すきっかけになりました。

今大会で部員全員が次こそは優勝という大きな目標を持つことができました。よりいっそう一丸となって日々練習に励んでいきたいと思えます。



### 第11回カトリック女子大学総合スポーツ競技大会成績発表

#### 【総合】

- 優勝 聖心女子大学
- 準優勝 白百合女子大学
- 3位 京都ノートルダム女子大学
- 4位 ノートルダム清心女子大学
- 5位 清泉女子大学

#### 【バスケットボール】

- 優勝 聖心女子大学
- 準優勝 白百合女子大学
- 3位 京都ノートルダム女子大学
- 4位 ノートルダム清心女子大学

#### 【硬式テニス】

- 優勝 聖心女子大学
- 準優勝 清泉女子大学
- 3位 京都ノートルダム女子大学
- 4位 ノートルダム清心女子大学
- 5位 白百合女子大学

#### 【バドミントン】

- 優勝 聖心女子大学
- 準優勝 白百合女子大学
- 3位 京都ノートルダム女子大学
- 4位 ノートルダム清心女子大学

#### 【バレーボール】

- 優勝 ノートルダム清心女子大学
- 準優勝 聖心女子大学
- 3位 京都ノートルダム女子大学

#### <得点表>

大学名	バスケットボール	テニス	バドミントン	総合得点	順位
聖心女子大学	4	5	4	13	1
ノートルダム清心女子大学	1	2	1	4	4
白百合女子大学	3	1	3	7	2
清泉女子大学		4		4	5
京都ノートルダム女子大学	2	3	2	7	3

## 若手研究者交流会に参加

2011年12月23日(木・祝)

心理学科 2011年3月卒業 本城 梨紗

2011年12月23日(金・祝)に京都工芸繊維大学で行われた若手研究者交流会に参加させていただきました。多くの大学から大学生・大学院生、先生方が参加してお互いに発表し合い、意見交換を行うというアットホームな勉強会でした。

私は「障害者スポーツの環境要因について～シッティングバレーボールを事例に～」という題で卒業論文を作成し、今回その内容について発表しました。私の場合、卒業論文は提出済みであったため、口頭試問の練習を兼ねて発表の準備をしました。当日は、とても多くの方に発表を聞いていただき、私の卒業論文に対して質問や意見など言って下さったので、もっと調べたいことや深めたい部分がたくさん出てきました。他大学の学生とこのような交流は今まであまりなかったので、本当に充実した時間となりました。



**指導教員: 心理学部 心理学科 内田 和寿**

今回の若手研究者交流会には、京都工芸繊維大学、京都教育大学、大阪教育大学、愛知教育大学、本学の学生・大学院生・教員が参加して、交流を深めました。

自分の研究が独りよがりになっていないか、その研究内容を多くの

人に聞いてもらい、意見を頂くことは非常に重要なことです。また、他大学との交流も、ややもすると閉鎖的になりがちな女子大学にとっては重要なことだと思い、今回の会に参加させていただきました。

他大学の学生は心理学専攻ではない為、本城さんの研究をとて興味深く聞いていただいていたように感じました。

## 生活福祉文化学部保育士養成課程第2回卒業発表会

2012年3月6日(火)

生活福祉文化学科 2012年3月卒業 小川 朋子

2012年3月6日(火)、私たち保育士養成課程第2期生は、卒業発表会を行いました。当日は地域の保育園の子どもたちや保育士の方々約40人にお越しいただき大変賑やかな発表会となりました。

発表会では、まず全員で「まるまるもりもり」のダンスを行いました。子どもたちと一緒に楽しく体を動かすことにより、私たち学生も緊張がほぐれ、和やかな雰囲気で行うことができました。4つのグループに分かれ「てぶくる」(ペープサート)、「赤ずきん」(劇)、「おべんとうなあに」(絵本劇)、「大きなカブ」(歌と劇)を披露しました。劇中では、子どもたちに参加してもらった場面もあり、一緒に楽しむことができました。幕間も、手遊びや、「エビカニクス」体操をし、大変盛り上がり子どもたちの笑顔溢れる発表会となりました。

発表会までを振り返ってみると、あっという間だったように感じま

す。就職活動や卒業論文で忙しい中、時間を見つけては皆で集まり、子どもたちに楽しんでもらえるよう案を出し合いました。最初はわからないことばかりの手探り状態でした。しかし、何度も話し合い、練習するうちに、少しずつ発表の中に自分たちらしさが出てきたように感じます。そして、本番では私たち自身、楽しんで発表を行うことができました。準備は大変でしたが、子どもたちの楽しそうな笑顔を見た時は、心から嬉しく感じ、保育士になる自信ができました。

私たちは、これから社会へ出ます。この発表会での経験を通して、改めてこれからの自分のあり方を見つめ直すことができました。ここで学んだことを忘れず、自信を持って社会に大きく一歩踏み出していきます。



## 第7回定期演奏会 ～室内管弦楽部～

2011年12月18日(日)

室内管弦楽部 生活福祉文化学科 4年次生 岡田 侑子

室内管弦楽とは、約2～13人の少人数で楽器を演奏する音楽です。私たちは、楽器を演奏する楽しみを学びながら、皆で音楽を作り上げていく喜びを感じ、日々、演奏の向上を目指しています。

そして、毎年12月に定期演奏会を行っています。2011年12月18日(日)の第7回定期演奏会では、私たち室内管弦楽部だけでなく、他大学の楽団の方にお力をお借りし、今までより多い22名で演奏ができました。楽器が増えたことで、少人数での演奏しか体験がなかった私たちにとっては、大人数での演奏の仕方など多くのことを学ぶよい機会となりました。

また、今回の演奏会で初めて打楽器を入れました。そのため、演奏により豊かな表情が出て、聞きに来てくださったお客様にいっそう楽しんでいただけたかと思います。今回、シベリウス作曲の「交響詩フィンランディア」という大曲に挑戦しました。このような大曲に挑戦できたことで、私たちは成長できたことを実感し、また、もっと練習を重ね、さらに多くのお客様に楽しんでもらえるような演奏会を来年、再来年とお届けできるようにしていきたいと思いました。そのため、これからも部員全員で協力し、努力していきたいと思っています。



## 第45回定期演奏会 ～女声合唱団～

2012年1月15日(日)

女声合唱団 生活福祉文化学科 3年次生 橋ヶ谷 昇子

女声合唱団は1966年に創設され、今年で46年目を迎えます。現在は3年次生が1名、2年次生が4名の計5名で活動しています。2011年8月28日(日)には同志社リーダークラウンの方とジョイントコンサートを開催し、初めて混声合唱に触れ、女声合唱ではできない曲の深みや広がりを感じることができました。それだけでなく、分担した運営上の仕事によって個人個人が一回り成長することができたように感じます。そして第45回定期演奏会を2012年1月15日(日)に本学にて開催しました。45年というこれまでの先輩方が築いてこられた長い歴史に新たな1ページを加えることができ、大変嬉しく思います。本学の定期演奏会では定番となった宗教曲だけでなく、ドイツ語の曲にも挑戦し卒団生のソロパートは勿論、コーラスも独特の発音や発声方法を指揮者の先生から学びました。

また学内では50周年記念式典行事のほか、入学式や卒業式、物故者追悼ミサ、NDクリスマスなどといった式典に参加しています。1つのステージを完成させるために式典や演奏会を終えて発見した個々の課題や全体的な課題を克服し、曲を楽しみながら完成させることを目標に日々練習を重ねています。これからも日頃の積み重ねを大切にしながら頑張っていきたいと思っています。



## リーダーズセミナー

2012年2月13日(月)・14日(火)

総クラブ長 生活福祉文化学科 4年次生 瓜生 里映

私は2011年度に各クラブのリーダーとして総クラブ長を務めてきました。

セミナーの1日目は、学生委員の先生から「リーダーとしての心得について」のお話を聞いた後、分科会で討議を行い、クラブ体験談、会計についての説明を受けました。2日目は、各部長が左京消防署の方から救命講習を受け、午後は消防避難訓練の後に、総クラブ会議が行われました。

この2日間を通して、特に分科会が心に残っています。分科会では、各グループに分かれて1つのテーマを選択し話し合いを行いました。その際にブレインストーミングという方法を用いて、さまざまな意見を出し合うことができました。今回は「部員の獲得方法」というテーマをすべてのグループが選択し、どのクラブもその必要性を強く感じているため、さまざまな意見が挙げられました。

また、ND祭実行委員長とバドミントン部部長のクラブ体験談を聴き、長として上立つ以上責任を持って行動すること、部員と協力していくことの大切さを話されたことが特に印象に残っています。

今回のリーダーズセミナーに参加して、1年間活動してきた中で、自分の行動で周りが影響されてしまうことを経験し、その責任を学びました。また自分の仕事や責任感に潰されそうな時、助けてくれた同じ総クラブの部員に感謝し、協力することの大切さを改めて感じました。

これからのクラブを担っていく部長が1人で運営することは難しくできないことだと思います。1人で問題を抱え込むことなく部員達と協力し合い、また部長として責任を持ち自分を信じて楽しくクラブを行ってほしい、そして今回で学んだことをクラブ内でも活かしながら成長してほしいと心から思ったリーダーズセミナーでした。

## 京都ノートルダム女子大学リーダーズセミナー日程表

期間:2012年2月13日(月)~2月14日(火)  
学生参加人数 63人

2月13日(月)【時間厳守】	
9:00	集合:ユニソン会館 社学1 (出席確認) *筆記用具持参
9:15	開会:挨拶 学生委員長 小川 光 先生 学生委員、学生課 紹介
9:30	研修I:社学1 ・リーダーの心得 講師:薦田 未央 先生
9:45	研修II:社学1 グループミーティングの方法 ーブレインストーミングの説明ー 講師:小林 順 先生
10:15	分科会 (研修に入る前に自己紹介すること) テーマをひとつ選び討議する ・部員の獲得方法 ・その他 ・クラブ間の交流 ・クラブの活性化
11:45	昼食:食堂
12:30	引続き分科会討議・まとめ *リーダーが出席を取ること
13:15	研修III:社学1 全体会(各班発表) 分科会 討議内容の発表
14:00	研修IV:社学1 クラブ体験談 2011年度ND祭実行委員長 今西 なほみ 2011年度バドミントン部部長 八尾 姫美子 (質疑応答)
14:20	研修V:①課外活動の会計事務 関 恵一 経理課長 ②課外活動における諸届等 ③大学行事への協力依頼 (質疑応答)
15:30	休憩
15:45	研修VI:会計実践講習会(学生会執行部)
16:45	終了予定

2月14日(火)【時間厳守】	
9:00	研修VII:社学1 救命講習会(左京消防署) AEDの使用法等 *各自体操服に着替えて集合してください *筆記用具持参
	ビデオ講習終了後、3班に分かれ音楽練習室1にて実技講習 注意:昨年度に講習を受けた者は「普通救命講習修了証」を持参してください。 *各クラブ部長1名参加
	
12:00	昼食:食堂
13:00	研修VIII:社学1 消防避難訓練説明 *各クラブ部長・会計担当者参加
13:30	消防避難訓練
	
15:00	閉会:挨拶 学生委員長 小川 光 先生
15:15	総クラブ会議 社学1
16:00	終了予定

## 新学生寮「キャロライン寮」

キャロライン寮自治会役員 生活福祉文化学科 3年次生 大久保 千春

ユージニア寮からキャロライン寮に移って、数ヶ月が過ぎました。まだまだ慣れないことも多いのですが、全体的に寮生たちは新しい寮での生活に馴染んできているように思います。

キャロライン寮に移って、私が一番大きく変わったと感じていることは、二人部屋のルームメイトとの距離です。ユージニア寮では、相部屋でもそれなりに適度な距離感があり、必要以上に干渉することはありませんでしたが、キャロライン寮の二人部屋はユージニア寮のそれと比べて狭いために気をつかいます。しかし、気くばりをしなければならぬ分、相手とコミュニケーションをとる機会が増えるので、親しくなるのも早いと思います。

それからユージニア館3階にあったユージニア寮は構造上、口の字型に居室や浴室などが並んでいたため、居室によっては遠かったり近かったりもしましたが、コンパクトになったキャロライン寮ではどの部屋からも浴室や洗面所が近いので、とても便利です。

さらに、ユージニア寮はワンフロアだったので自分の部屋から遠い部屋の人とは滅多に会いませんでしたが、キャロライン寮では同じフ

ロアに住んでいる先輩や後輩にはよく会うようになり、新しく仲の良い人ができました。逆に、他のフロアに住んでいる人達には全くといっていいほど会う機会がなくなってしまい、たまに玄関などで会うと、同じ寮に住んでいるにも関わらず、「久しぶり～」なんていう会話をすることもしばしばです。

新しい寮についてお話をするときがありませんが、私はどの寮生もそれぞれにここでの生活を楽しんでいるように思います。



## 学生寮 4年次生を送る会

2012年2月1日(水)

キャロライン寮自治会長 英語英文学科 4年次生 平井 明湖

寒さが増す季節になると、学生寮では、毎年恒例の4年次生を送る会が開かれます。この行事は、今まで共に過ごした寮生全員が揃う最



後の行事であり、特に3年次生と4年次生にとっては、とても特別なものです。あっという間に、同じ部屋で過ごした先輩を送り出す立場になり時間の経つ早さに驚きました。入寮した当時、右も左もわからなかった私たちに、掃除や寮生活のルールを教えてください、また、大学生活で初めてできた先輩でもありました。先輩方と過ごした楽しい時間や思い出が、昨日のこのように思い出されます。そんな、お世話になった先輩に精一杯の感謝の気持ちを込めて、手紙やプレゼント、そしてスライドショーを作成しました。普段は言えそうにない事も、この日だけは素直に伝えることができ、また、この会で先輩から言葉をいただいた時は本当に感動的な瞬間でした。卒業されることで、先輩との別れはとても寂しく感じますが、新たな道へと進んで行かれる姿に、エールをおくりたいと思います。4年間という長いようで短い日々を寮で過ごされた先輩方を、温かく楽しい思い出とともに送るこの行事が、この先も、寮生にとって特別なものとして続いていくことを願っています。

## 学園祭の売り上げを東日本大震災ともしび会に寄付

英語英文学科 4年次生 橘堂ゼミ代表 竹下 真歩

まずはじめに、東日本大震災で被害に遭われた多くの方々にお見舞い申し上げます。少ない金額ではありますが、みなさまのお役に立てるよう寄付をいたしました。毎年、私たちはゼミの行事の一環として、学園祭の模擬店での収益金をボランティア活動に活かしています。ゼミでの話し合いの結果、被災地の人々のために何かしたいという気持ちから今年は寄付をすることに決めました。私たちの模擬店では焼きそばを作ることになり、大半が未経験者ながらも、大成功で学園祭の2日間を終えることができました。最初からすべてが順調というわけではありませんでした。困った時にはみんなで相談する、そんな雰囲気が出ていたように感じます。一人ひとりが自分の役割を果たし、互いに協力し合えたからこそ良い結果で終わったと思っています。もちろん支援してくださったたくさんの方々のおかげで、私たちは寄付をすることができました。学校の近くのお好み焼き屋さん「しゅーぶる」のご夫妻は8本の業務用の焼きコテをお貸し下さいましたし、最終日の売れ残りを引き受けて下さった大学前の喫茶店のご主人、教職員の先生方、学内外の生徒や一般の方まで、寄付金の趣旨に賛同していただき売上げに協力してくださったことを、本当に心から感謝しております。今回の活動は、私たちにとって有意義なものでありました。助け合える仲

間がいるということ、そして多くの人と繋がれるということは、とても大切だと改めて感じました。現在、日本は震災を受け、国民全体で一つになりこの大きな問題を乗り越えていこうとしています。ですから私たちもその一人として、今の自分ができることを精一杯していきたいと思っています。



## 私の国際交流体験 -ニュージーランド・ハット市を訪問して-

英語英文学科 2年次生 前田 光穂



ハット市長Ray Wallaceさんと



ニュージーランド・ハット市と私の地元・箕面市は姉妹都市提携をしています。

今年の1月、箕面市ハット市友好クラブのメンバーの一員として、ニュージーランドに私にとって3度目の旅に行ってきました。3年前に、箕面市ハット市友好10周年祭に参加するため初めて伺ったときは、箕面市代表として、前市長さんやたくさんの方々の市民の方とふれあったり、茶道のお点前を地元の小学校で披露したりと、日本の文化をたくさんの方々に紹介しました。今回は、滞在期間は短かったのですが、現市長のRay Wallaceさんが開催して下さったパーティーに参加したり、特別開催された“Japan Day”に参加し、再び茶道のお点前を披露したりすることができました。

Wallaceさんは、とても気さくに優しく話しかけてくださり、ニュージーランドで小学校を訪問したり、日本でニュージーランドからの短期留学生と触れ合って、どう感じたかなど、いろいろなお話をしました。地元の方々の中には、10周年祭のときに私が茶道を披露したことを覚えてくださっている方も多く、そのときの写真をくださった方もいました。また、前回の私のお点前の披露に興味を持ち、日本に去年行ったよと声を掛けてくださる方もあり、とてもうれしく思いました。

今は、ニュージーランドの方々に来日された際、様々な形で日本での行事や観光のお手伝いをしています。これまでの交流を通して、英語で様々なことを伝える楽しさや、日本人として、日本文化を学び、外国の方にも広めることの大切さを改めて感じるすることができました。今後も箕面市とハット市の友好が深まるよう、お手伝いをしていきたいので、もっと頑張って英語を学びたいと思っています。

国際教育センター

夏休み・春休みに海外で学ぶ!「2012年度特定目的海外研修」

例年、夏休み・春休みの長期休暇期間中に海外で語学や専門分野の学習をする特定目的海外研修を実施しています。2012年度の特定目的海外研修は以下のとおり計6研修を開講します。参加を希望する学生は、国際教育センターにて申し込んでください。

申込期間:4月9日(月)~5月7日(月)

●英語海外研修Ⅰ(アメリカ・ハワイ) 【春休み開講】	研修先:ハワイ大学マノア校 日 程:2013年2月10日(日)~3月3日(日)
●英語海外研修Ⅱ(カナダ) 【夏休み開講】	研修先:レジャイナ大学 日 程:2012年9月3日(月)~9月23日(日)
●社会福祉海外研修(デンマーク) 【夏休み開講】	研修先:日欧文化交流学院 日 程:2012年9月3日(月)~9月14日(金)
●芸術文化海外研修(オランダ・オーストリア・スイス) 【春休み開講】	研修先:アムステルダム、ウィーン、ザルツブルグ、チューリッヒ等 日 程:2013年2月13日(水)~2月25日(月)
●韓国語海外研修(韓国) 【夏休み開講】	研修先:韓国カトリック大学 日 程:2012年8月6日(月)~8月29日(水)
●海外インターンシップ研修Ⅱ(オーストラリア) 【夏休み・春休み開講】	研修先:グリフィス大学ゴールドコースト校、ブリスベン市内の企業、学校、団体 日 程:【夏期】2012年8月24日(金)~9月15日(土) 【春期】2013年2月15日(金)~3月9日(土)

研修日程は、変更する可能性があります。

■海外研修説明会

以下の日時に特定目的海外研修の説明会を行います。興味のある学生はいずれかの説明会に参加してください。  
日 時:【第1回目】2012年4月10日(火)17:00~18:00 【第2回目】2012年4月11日(水)17:00~18:00  
場 所:R205(予定)

留学相談・各種留学説明会を実施

国際教育センターでは、留学に関する情報を提供し、随時、留学相談に応じています。  
また、下記の日程で各種留学制度の説明会を開催します。各留学制度に興味のある学生は、必ず参加してください。

留学説明会日程

●韓国カトリック大学交換留学説明会	日時:2012年5月9日(水) ①13:10~14:40 ②15:05~16:35 場所:国際教育センター 概要:韓国ソウル近郊の韓国カトリック大学へ半年又は1年間交換留学する制度です。
●セメスター認定留学説明会	日時:2012年5月17日(木)17:00~18:30 場所:R209(予定) 概要:海外の協定大学で半年又は1年間、英語を主に学びに行く制度です。
●米国姉妹大学留学説明会	日時:2012年5月24日(木)17:00~18:30 場所:R209(予定) 概要:アメリカにある本学の姉妹大学へ1年間学部留学する制度です。

2011年度 特定目的海外研修 英語海外研修Ⅳ(オーストラリア)実施報告



2012年2月15日(水)~3月10日(土)の25日間、オーストラリアの第2の都市メルボルン市に所在するモナシュ大学で開講され、計12名(英語英文学科6名、人間文化学科2名、生活福祉文化学科2名、心理学科2名)が参加し、3週間の英語集中授業とホームステイに臨みました。  
メルボルン市内中心部にあるモナシュ大学のシティキャンパスにて、本学学生のために組まれたカリキュラムに沿って会話中心の英語強化に努めました。  
慣れない環境で午前8時30分から始まる授業には、最初参加学生たちも戸惑い気味でしたが、徐々に現地の生活スタイルに合わせられるようになり、授業中もディスカッションを行ったり、プレゼンテーションの準備をしたり、活発に受講していました。  
授業のない午後には、メルボルン市内を探索したり、動物園でオーストラリア独特のコアラやカンガルーなどを見たり、日本では味わえない文化や生活習慣、自然を体験することができました。  
また、ホームステイを通して、普段とは異なるライフスタイルにふれるチャンスに恵まれました。学生からは、「ホストファミリーのために日本料理を作るととても喜ばれた。」「ホストマザーと様々なことについて話し、自主性の大切さを学んだ」などの感想が挙げられました。





## 国際教育センター

## 2012年度各種英語能力試験の受験について

国際教育センターでは、以下の英語能力を測るテストの実施や申し込み受け付けを行っています。

## ・TOEIC® 公開テスト

英語コミュニケーション能力を測るテスト。スコアは就職時にも活用できます。

## ・TOEIC® -IPテスト

学内で実施するTOEICテスト。スコアは就職時にも活用できます。

## ・TOEFL-ITPテスト

アカデミック英語能力を測るテスト。留学時に必要です。

各テストの実施や申し込みについては、国際教育センターの掲示板に掲出しますので、ご覧ください。テストの種類によって受験料、申込期間が異なります。申し込みの際は、遅れることのないようご注意ください。

## ■2011年度 A-Vルーム 利用実績と作品ランキング

## 2011年度年間DVD視聴TOP10

順位	作品名	利用者回数
1	gossip girl : The first Season disc.1 (The first Season)	79
2	gossip girl : The first Season disc.2 (The first Season)	76
3	借りぐらしのアリエッティ	65
4	ダーリンは外国人	61
5	ミーン・ガールズ	60

## Audio-Visual Room (A-Vルーム)を活用しよう!!!

国際教育センターでは、学生の言語学習のために、各種DVDやビデオ、ニンテンドーDS、語学教材等をテレジア館3階のA-Vルームにて提供しています。

また、昨年度末より「超字幕」という英語ドラマや映画を日英字幕および単語辞書機能付きで見ることができるソフトを導入しました。再生スピード調節ができるので、みなさんの英語レベルに応じてリスニングや語彙を伸ばしていくことが可能です。

休み時間や放課後に自由に利用できるので、気軽にいろいろな言語に触れてみてください。

順位	作品名	利用者回数
6	恋する履歴書	59
7	gossip girl : The first Season disc.4 (The first Season)	55
7	塔の上のラプンツェル(Disney DVD)	55
9	gossip girl : The first Season disc.3 (The first Season)	53
10	お買い物中毒な私!	51

## ◎2011年度年間利用者数

学年	人間文化学部		生活福祉文化学部	心理学部 心理学科			大学院		計
	英語英文	人間文化	生活福祉文化	発達心理	学校心理	臨床心理	人間文化研究科	心理学研究科	
1年次生	297	7	231	16	234	17	-	-	802
2年次生	207	37	117	53	79	119	-	-	612
3年次生	442	108	92	0	51	28	-	-	721
4年次生	262	22	18	30	42	105	-	-	479
修士1	-	-	-	-	-	-	12	0	12
修士2	-	-	-	-	-	-	0	0	0
計	1,208	174	458	99	406	269	12	0	2,626

## Notre Dame International Student Club(留学生会)参加者募集

本学に在籍する外国人留学生と全学部学科の学生との交流を行う「Notre Dame International Student Club(留学生会)」では、学内での学生との交流活動、日本文化体験、出身国の紹介、各国の言葉の交流活動などを行っています。また、例年ND祭で各国料理の模擬

店を出店し、学内外のみなさんに好評いただいています。

現在、留学生会では、外国人留学生とともに様々な交流をしたい学生を募集しています。誰でも参加できますので、興味があれば国際教育センターまでお越しください。



キャリアセンター

「キャリア形成ゼミ～大原フェスタゼミ～」の活動について

キャリアセンターでは2010年度に採択された「就業力GP」プログラムの一環として「キャリア形成ゼミ」を2012年度に開講します。2011年度はその試行期間とし「紅葉の秋！大原フェスタを楽しむ企画」を実施しました。

京都市左京区大原地域では、今年3月に起こった東日本大震災をきっかけに、日ごろからの地域の交流や活性化の必要性を感じ、11月に「大原フェスタ」のイベントを開催する、という計画がありました。そこでこのイベントを企画し、実行するために学生の協力が必要とのことと、京都市左京区社会福祉協議会と本学が提携し、高齢者向けのイベントを企画、実施する、というものでした。

7月に行った参加募集説明会を聞き、集まった学生は7名。夏休み明けから社会福祉協議会の方々や勉強会や現地見学などを行いました。9月7日(水)、地域の方々との交流会に参加、10月23日(日)、地域への理解を深めるために大原朝市に参加、11月2日(水)、アロマハンド

ケアの講習会受講、11月6日(日)、左京区の防災訓練等に参加し、地域や、高齢者の方々への理解を深めていきました。

そしていよいよ本番の11月19日(土)大原フェスタ当日、彼女たちは大原女の衣装を着てイベントにのぞみました。目的は地域の方々に喜んでもらえ、笑顔になってもらうこと。そのために彼女たちが考えたこと、それは最初にアロマハンドケアで緊張をほぐし、その後に交流ゲーム、最後に大原でとれたさつまいもで作ったスイートポテトでティータイムをし、交流を図るというものでした。結果は上々。集まった高齢者の方々は大変喜びました楽しんでくださいました。

キャリア形成ゼミの目的は社会に出る力をつけること。「大原フェスタゼミ」の企画から実践までを通し彼女たちには企画力、コミュニケーション力など様々な力がついたと実感します。来年度本格開講する「キャリア形成ゼミ～就業力実践演習～」にご期待ください。

(キャリアセンター 喜多 泰子)



キャリアセンター

ホームページを開設しました!! 皆さんのアクセスをお待ちしています。



キャリアセンターのホームページが完成しました。

この度、本学のキャリア教育、就職支援の取組みや情報について在学生や保護者の方、企業の方、卒業生に提供することを目的にキャリアセンターのホームページを開設いたしました。

キャリア・就職関係のガイダンスや講座の予定を学年ごとにわかりやすく表示している「キャリアカレンダー」やキャリアセンターの活用法など、低学年から利用できるライフキャリアを意識したコンテンツも多く掲載しています。

特に就職活動に役立つものとしては、「就職試験受験証明書発行願」のダウンロードが可能となり、今までは大学の窓口でしか受け取れなかった書類の取得が容易になりました。トップページには学生専用ポータルサイトへの入口を設け、求人情報や企業情報を検索することもできます。

今後も学生の皆さんに役立つコンテンツや情報を随時アップロードしていく予定ですので、ぜひご覧ください。

右記のURLからご覧ください。 <http://www.notredame.ac.jp/careercenter/>

大学ホームページの「就職・資格取得」「在校生の方へ」「各センター・図書館」からもアクセス可能となっています。

## 教務学事課

## 2012年度からのカリキュラム変更等について

最近、新聞などで関係の記事をよく目にしますが、大学教育は今、大きな変革期の中にあるといえます。本学においても、他大学等との連携の推進や北山キャンパスの整備などさまざまなプロジェクトが動いています。とりわけ、学生の皆さんにとって最も大切な学業の面については、カリキュラム改革など大きな変化が進行中です。

教務部では、現在の教育課程を円滑に実施する日々の業務に加え、教授会や教務委員会等で決められた方針に基づき、変化に対応するため制度の導入や充実に取り組んでいます。ここでは特に2012年度から全学共通に変わる点を中心に、これらの一部を紹介します。

## ●キャリア教育を体系化した共通教育●

2012年度の入学生から、共通教育のカリキュラムが新しくなりました。本学に入学した学生が4年間の学士課程教育を通して身につける力(学士力)の基盤・基礎を培うことができるよう、ライフキャリアの形成をめざすことを柱として科目の区分や必要単位数などをリニューアルし、新しい科目も設けました。

共通教育科目、専門教育科目に加えて新設した「学際教育科目」の区分は、専攻分野だけにとどまらない、学部学科の枠を超えた体系的な学びを積極的に評価するものです。2013年度からスタートする学部横断プログラムを修了するために履修した他学部等の科目の単位は、学際教育科目として卒業要件単位に算入されます。

## ●人間文化学部 初年次教育を充実●

人間文化学部では、初年次教育を充実させるため、「学部共通科目」として「学びの扉」(文化学・京都学・芸術学・文学・ことば学・女性学の6科目から3科目選択)を新設し、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を英語英文学科にも拡充しました。人間文化学科では、領域の変更や科目の新設な

ど専門教育科目が大きく見直されました。

## ●幼稚園・小学校に専修免許課程●

大学院心理学研究科発達・学校心理学専攻では、幼稚園・小学校の専修免許状が取得できる教職課程がスタートしました。

## ●在学生も新設科目を履修可に●

従来、科目の新設や名称変更が行われた場合、新しい科目は新入生だけに適用され、先に入学した学生は履修できないのが原則でしたが、2012年度からは、在学生(2011年度以前の入学生)でも新しい科目(選択科目)を履修できるようになりました(必修科目などは従来どおり変更前のまま(読替)となります)。新旧の科目の対応や経過措置などの情報は、学生便覧の「履修科目表」に表示しています。

## ●学生便覧がリニューアル●

学生便覧に掲載する情報を整理して見やすくし、入学時にだけ(在学生は2012年度版まで)配付することとしました。これまで学生便覧に掲載していた各年度の学事日程や開講科目、ルールの変更点などの情報は、「学生手帳」等を新たに作成し毎年度配付します。

## ●GPA制度・CAP制活用で学力向上めざす●

2011年度入学生から導入した「GPA」は、成績を0～4点に換算した得点(Grade Point)に単位数を掛けて合計し、登録科目の総単位数で割った平均値で、不合格科目があると値が低くなります。登録上限単位数(キャップ)の全学年設定も行い、2012年度入学生からは、GPA値が高い学生は上限単位数を増やすことができる制度を導入しました。

## 教務学事課

## 教員採用試験受験対策講習を実施しました

本学は、2011年10月13日(木)、大谷大学(京都市)と「教員採用試験対策講習に関する覚書」を取り交わしました。この覚書は、教員を目指す両大学の学生が、教員採用試験の合格に向けて共に研鑽することを通して「学習意欲の向上」を図ることを目的としています。ひとつの教員採用試験対策講習を合同で開講することで費用を削減できるため、学生の皆さんの受講料負担を減らし、「キャリア教育の効果的・効率的な実施」が可能となる、新たな取り組みです。

2012年2月8日(水)～2月10日(金)に本学、3月21日(水)～23日(金)に大谷大学で講習を実施し、両大学合わせて約70名の学生が受講しました。講習終了後のアンケートでは「熱意や意欲が高まった」「もっと勉強し、深めていきたい」「どのように勉強を進めていけばよいか明確になった」等の感想が寄せられました。

本学では今後も、この取り組みを通して、両大学の学生が互いに情報や課題を共有し、切磋琢磨できる環境を提供していきたいと考えています。



## 企画調整課

## 『研究紀要』第42号が発刊されました

『研究紀要』は京都ノートルダム女子大学における研究・教育成果を発表する学術研究誌として1969年(昭和44年)創刊より毎年発刊され、2011(平成23)年度は第42号が発刊されました。第42号執筆者とタイトルは下記のとおりです。また、本学の図書館にて常

時閲覧可能です。冊子をご希望の方は学長室企画調整課(TEL:075-706-3789)までご連絡ください。本学の学術機関リポジトリにも掲載する予定です。



No.	所属	氏名	テーマ
1	人間文化学部 英語英文学科	松井 千枝	英語学と共に歩んで
2	人間文化学部 英語英文学科	沖原 勝昭	EFLコンテキストと言語教育政策
3	人間文化学部 英語英文学科	小山 哲春	Validity of the YTK Speaking Test: Construct Validation of a Performance-based English Speaking Test for Elementary School Students in Japan
4	生活福祉文化学部 生活福祉文化学科	矢島 雅子	知的障害のある人のストレスを高める支援 -ティササービスの実践-
5	心理学部 心理学科	内田 和寿	「スポーツ活動を通じた地域交流」 -本学を事例に-
6	心理学部 心理学科	佐藤 睦子	スクールカウンセラーが果たす役割 -成長支持的アプローチの重要性を通じて-
7	心理学部 心理学科	高井 直美	幼児期における心の理論の発達とふり遊びとの関連
8	心理学部 心理学科	田中 誉樹	フロイトの症例「エリザベート」についての現象学研究 -その1-
9	心理学部 心理学科	松島 るみ	大学授業観が学習意欲・大学満足感に及ぼす影響 -学業に対するリアリティショックを媒介として-
10	非常勤講師	大野 順子	自己とグローバル問題の“つながり”を重視したカリキュラムに関する一考察 -普通科総合選択制高校「国際エリア」での挑戦-
11	名誉教授	五十嵐 節子	アーヘン大聖堂の恵みの像についての一考察
12	非常勤講師	松田 光一郎	精神障害者地域生活支援センターの現状と役割に関する研究 -グループ・アプローチによる取り組みを通して-
13	非常勤講師	但馬 貴則	富士谷御杖の古今仮名序註釈における歌論的要素についての検討 -おもに初期の歌論書との関連から-
14	人間文化学部 人間文化学科	長沼 光彦	朗読と読解

(目次掲載順)

## 企画調整課

## 2011年度「全学教員研修会」が開催されました

FD委員会は、本学の教育の質的向上を目指すため、毎年「全学教員研修会」を開催しています。

「全学教員研修会」は、2012年3月7日(水)各学部・学科(専攻・研究科)別に開催され、「学生による授業評価アンケート」と「大学院生による授業評価アンケート」の集計結果をもとに、全学の教員が授業科目の現状を分析し、教育指導方法や内容に対する改善点等について活発に意見交換を行いました。今年度は授業評価アンケートの集計結果を分析するだけでなく、2011年度から実施された「オープンクラス(公開授業)」や今後の「FD活動」についても話し合いがもたれ、「オープンクラス」の実施方法や今後の「FD講演会」の在り方についても積極的な意見が出されました。

また、今年度からは、共通教育科目についても集計結果をもとに共

通教育検討小委員会において今後の授業改善の方策等について話し合いが行われています。

今回の研修会で話し合われた内容は「2011年度 FD報告書」として5月末に発行し、本学ホームページ上で公開する予定です。

○ホームページアドレス(教育・研究活動)

<http://www.notredame.ac.jp/kikakukaihatsu/>



生活福祉文化学部



心理学部

## 企画調整課

## 2011年度 後期オープンクラス(公開授業)を実施しました

2011年度後期オープンクラス(公開授業)は、前期に引き続き「生活福祉文化基礎演習Ⅱ」を対象とするとともに、各学部学科から1科目ずつ選出し、以下の授業を実施しました。

日程	講時	科目名	所属	担当教員	参観者数
10月21日(金)	4講時	比較文学講読Ⅱ	人間文化学部 人間文化学科	服部 昭郎	4名
11月1日(火)	2講時	教育方法学	心理学部 心理学科	神月 紀輔	7名
11月30日(水)	3講時	英語英文学特論(スペシャリストセミナー)	人間文化学部 英語英文学科	小山 哲春	7名
1月13日(金)	3講時	生活福祉文化基礎演習Ⅱ	生活福祉文化学部 生活福祉文化学科	萩原 暢子・桐野 由美子・ 鳥居本 幸代・佐藤 純・ 石井 浩子・牛田 好美・畠山 寛	10名

今回は、参観者にアンケートを実施するだけでなく、授業を担当した教員にもアンケートを実施し以下のコメントをいただきました。「参観者からのアンケートの助言をいただくことができ大変参考になった。他の先生にもこのようなチャンスを積極的に使い、クラスワークの活性化に取り組んでいただきたい。」「オープンクラスを取り組むにあたり、自らのクラスを見直す良い機会となった。」などのコメントが寄せられました。

FD委員会では、オープンクラスを通じて、教員同士が学び合い、より質の高い魅力的な授業を学生へ提供できるよう、今後も積極的に展開していきたいと考えています。

後期オープンクラスの  
授業風景

比較文学講読Ⅱ



教育方法学



英語英文学特論(スペシャリストセミナー)



生活福祉文化基礎演習Ⅱ

## 保健室

## 在学生のみなさんへのお知らせ

## ■定期健康診断について…全学生のみなさんへ

今年度の健康診断を学内実施期間(3/21~23)に受けられなかった方は、3月末に案内を郵送しました通り、各自で委託機関に予約を取り受診してください。4月中は無料で受けられます。

新入生で4月5日に受診できなかった方には4月上旬に委託機関での受診案内を郵送する予定です。不明な点は保健室にお問い合わせください(075-706-3741)。

定期健康診断は無自覚の病気の早期発見や自身の健康管理のため、学校保健安全法に基づき毎年実施することが義務付けられています。自身の健康管理に役立て、よりよい学生生活を送るためにも必ず受診してください。

## ■「健康診断証明書」について…

卒業年次生、大学院修了年次生、  
健康診断証明書が必要な学外実習へ行く学生のみなさんへ

今年度の「健康診断証明書」は、5月連休明け頃に自動発行機で発行開始の予定です(詳しくはロビーの掲示板をご覧ください)。

この証明書は、学校医が在学期間中の健康状態を診断した上で作成するため、定期健康診断を毎年受診していないと発行ができませんのでご注意ください。

## 心理臨床センター・学生相談室

## 教職員研修会「現代の大学生の親子関係と保護者支援の実際」を開催しました

毎年2回心理臨床センター学生相談室主催・教職員研修会が開催している2回目は、甲南大学文学部教授であり、カウンセリングセンター学生相談室の高石恭子先生をお迎えしました。テーマは「現代の大学生の親子関係と保護者支援の実際」と題し、学生の保護者についての研修となりました。

講師の高石恭子先生は、甲南大学で20年以上学生相談室に携わり日本学生相談学会常任理事も務められ、学生相談に関する著書も多数お書きになっていらっしゃいます。また一方、母性や親子関係など育てることをめぐる臨床的な研究も進められ、現在兵庫県臨床心理士会子育て支援担当理事も務められています。こうした長年の学生と関わってきたご経験と親子関係に関する研究からの幅広く、奥深い講演内容となりました。

例として、現代の学生と対応や理解をしていく中での困難さの背景として、「大学ジェネレーション・ギャップ」があると説明されました。つまり、大学入学人口が一部の人のみだった『エリート』時代から大半の若者が入学する『マス(大衆)』時代を経て、もはや大学入学は18歳人口の50%以上となった『ユニバーサル・アクセス』時代に突入しています。同じ「大学生」であっても、エリート時代の学生は「自分は特別な存在だ」という特権(エリート)意識を持ち、放っておいても自分で学ぶ、マス時代の学生は「大学で学ぶことは自分が持てる権利だ」と考え自由に大学生活を謳歌する。しかし、50%以上が大学生となる現代の大学生は「大学は行かなければいけない(義務)」とどこかでありなぜ大学に行くかということあまり考えることなく大学生になっているのではないかとことでした。そして、世代構成を見てみると、エリート意識を持つ教職員(管理職)世代、権利だと感じている保護者世代、大学に行くことはむしろ義務と感じている今の大学生と意識のズレがあり、これが教職員・保護者・学生を相互に理解していく困難さを生む一つの要因だと話されました。

また一方、祖父母世代のスパルタ方式で育てられてきた教職員と大事に大事に育てられてきた現代の学生の間に意識や育ちのズレがあるのは当然のことで、それは母子手帳内の子育てについての記載事項の変遷からもわかると説明されました。しかし、大学を卒業する時にはほとんどの学生は社会に出て行くことになります。社会に出て行くためには、親元から離れ自分の足で歩くための三者関係(社会的関係)が築けるまで成長していかなければなりません。そこには学生自身の成長もありますが、育てる側(保護者)の分離の『痛み』も生まれてくることだと話されました。大学はそうした親と子の分離していく過程の場であり、そこに居合わせる私たちは共に痛みを感じ、保護者・学生が共に成長していけるよう支援することが大事なのだということをお話されました。

(専門相談員 菊岡 千夏)



## キャンパスミニストーリー室

## キャンパスミニストーリー室移転



新校舎建設のため、キャンパスミニストーリー室を新しいキャロライン館内(1階アセンブリホール隣)に移転しました。面積は旧キャンパスミニストーリー室より少し狭くなりましたが、日当たりが良くとても明るいので、むしろ広く感じられます。他の建物から離れているので誰も寄り付かなくなるのではないかと心配していましたが、以前からの常連は相変わらず訪問してくれますし、以前と変わらず賑わっています。テーブル上には、これも相変わらず文具やお菓子、小物など雑多なものが置かれ、学生たちがそれらを大いに利用しています。部屋前の掲示板やショウウィンドウには、季節(教会暦)に応じた掲示や展示がなされています。いつも部屋には心安らく音楽が流れています。

引き続き、多くの学生が立ち寄りってくれることを期待しています。もちろん教職員の方々も歓迎です。

(キャンパスミニストーリー室 東 朝子)

## 行事予定

4月	2日(月)	入学前オリエンテーション・上靴販売、新入生英語プレースメントテスト・情報オリエンテーション
	3日(火)	入学式、新入生オリエンテーション・履修指導①
	4日(水)	新入生履修指導②、指導教員紹介、2年次生オリエンテーション・履修登録確認説明・指導教員によるオリエンテーション
	5日(木)	新入生履修登録・健康診断、3年次生オリエンテーション・履修登録確認説明、日本学生支援機構奨学金説明会(願書配布)
	6日(金)	新入生オリエンテーション、4年次生オリエンテーション・履修登録確認説明・英語英文学科オリエンテーション 司書課程オリエンテーション
	7日(土)	新入生オリエンテーション(クラブ紹介・教員研究室訪問・大学施設開放)
	9日(月)	前期授業開始日、登録変更期間(13日(金)まで)、
	10日(火)	特定目的海外研修募集説明会(11日(水)とも)
	11日(水)	就職ガイダンス開始、インターンシップ説明会
	12日(木)	キャリア形成ゼミ説明会(2・3年次生対象)
	14日(土)	1年次生履修登録確認・ノートルダム学第1回(予定)、教育実習事前指導(特別講師)
	17日(火)	4月のミサ
	18日(水)	フレッシュマンセミナー(ノートルダム学1)
	21日(土)	教育実習事前指導(特別講師)
	25日(水)	3年次生教育実習依頼指導②(人間文化学部・生活福祉文化学部のみ)
	26日(木)	平成24年度教員採用学内模試③(自宅受験)
29日(日)	(昭和の日)オープンキャンパス	
30日(月)	(振替休日)	
5月	1日(火)	※授業なし
	3日(木)	(憲法記念日)
	4日(金)	(みどりの日)
	5日(土)	(こどもの日)
	7日(月)	特定目的海外研修参加申込締切、ボランティア実践説明会
	9日(水)	人間文化学科4年次生卒論題目届出締切(17:00)
	9日(水)	韓国交換留学説明会
	12日(土)	補講日
	15日(火)	5月のミサ
	17日(木)	セメスター認定留学説明会
	23日(水)	2年次生教育実習依頼指導②(心理学部のみ)
24日(木)	米国姉妹大学留学説明会	
26日(土)	補講日	
27日(日)	オープンキャンパス	
6月	4日(月)	博物館学芸員資格取得オリエンテーション
	9日(土)	補講日
	17日(日)	オープンキャンパス
	19日(火)	6月のミサ
	23日(土)	補講日、大学院説明会
	30日(土)	補講日
7月	2日(月)	海外インターンシップ研修Ⅱ(オーストラリア)夏期参加決定者オリエンテーション①
	3日(火)	韓国語海外研修(韓国)参加決定者オリエンテーション
	7日(土)	TOEIC® IPテスト(希望者対象、9:00~13:00)
	11日(水)	セメスター認定留学決定者渡航前オリエンテーション
	16日(月)	(海の日)※通常どおり授業を実施する。
	17日(火)	7月のミサ
	21日(土)	補講日
	22日(日)	オープンキャンパス
	26日(木)	英語海外研修Ⅱ(カナダ・レジャイナ)参加決定者渡航前オリエンテーション
	27日(金)	前期授業最終日、社会福祉海外研修(デンマーク)参加決定者渡航前オリエンテーション、奨学金説明会
28日(土)	定期試験・補講調整期間開始(8月4日(土)まで)※定期試験のほか補講を行う場合がある。	
30日(月)	海外インターンシップ研修Ⅱ(オーストラリア)夏期参加決定者オリエンテーション②	
8月	4日(土)	オープンキャンパス(5日(日)とも)
	6日(月)	夏期休暇開始(9月27日(木)まで)、韓国語海外研修(~29日)
	11日(土)	夏期一斉休業(窓口事務取扱休止、17日(金)まで)
	24日(金)	海外インターンシップ研修Ⅱ(~9月15日(土))
	26日(日)	オープンキャンパス
9月	3日(月)	英語海外研修Ⅲ(~23日)
		卒業論文ラフコピー提出締切:生活福祉文化学部(12:00)、社会福祉海外研修(~14日(金))
	7日(金)	前期追試験(8日(土)とも)
	8日(土)	大学院入学試験Ⅰ期(心理学研究科)
	17日(月)	(敬老の日)
	22日(土)	(秋分の日)オープンキャンパス
	27日(木)	前期卒業式、夏期休暇終了
28日(金)	後期授業開始日、登録変更期間(10月4日(木)まで)	
29日(土)	大学院入学試験Ⅰ期(人間文化研究科)	
10月	8日(月)	(体育の日)※通常どおり授業を実施する。
	9日(火)	セメスター認定留学説明会
	12日(金)	卒業論文草稿提出締切:人間文化学科(17:00)
	15日(月)	卒業論文ラフコピー提出締切:心理学部(17:00)
	16日(火)	介護等体験事後指導、10月のミサ
	19日(金)	平成25年度介護等体験説明会
	20日(土)	補講日
	26日(金)	ND祭準備(授業なし)
	27日(土)	ND祭(28日(日)とも)(授業なし)、オープンキャンパス(28日(日)とも)
28日(日)	ホームカミングデー	

役職	氏名	役職	氏名
副学長(総務担当)	蒔苗 暢夫	副学長(教学担当)	中村 久美
<b>【学部】</b>			
役職	氏名	役職	氏名
人間文化学部 英語英文学科 学部長 学科長	須川 いずみ	生活福祉文化学部 学部長	萩原 暢子
役職	氏名	役職	氏名
人間文化学部 人間文化学科 副学部長 学科長	吉田 智子	心理学部 学部長	河瀬 雅紀
<b>【大学院】</b>			
役職	氏名	役職	氏名
応用英語専攻 専攻主任	小林 順	心理学研究科 発達・学校心理学専攻 心理学専攻 研究科長 専攻主任 専攻主任	上田 恵津子
役職	氏名	役職	氏名
人間文化研究科 人間文化専攻 研究科長 専攻主任	堀 勝博	臨床心理学専攻 専攻主任	向山 泰代
役職	氏名		
生活福祉文化専攻 専攻主任	竹原 広実		



12月22日(木) ハンドベル部クリスマスコンサート



3月23日(金) オープンキャンパス

## 編集後記

北山の地に半世紀にわたり「関西のお嬢様大学」としての歴史を刻んできた京都ノートルダム女子大学がこの1～2年で成し遂げた変貌は、目を見張るものがあります。施設の面では、昨年の11月に完成し、12月から入居が始まった学内寮を含む複合施設「キャロライン館」が挙げられます。入居した学生の感想として、「使い勝手がよく居心地のよい寮」と好評です。また、本館の新築工事の第一段階として今年4月から始まる工程は、21世紀の社会において自立した女性として貢献し、活躍できる人材を育てるための新たな環境整備です。ちなみに、東北地方の震災被災者のため、生活福祉文化学部の学生9名が3月4日から10日までの約1週間にわたり東日本大震災被災者支援ボランティア活動に参加しました。社会に貢献し、そのニーズに応えること、それは全ての学部学科の教育プログラムに共通したノートルダムの理念なのです。4月から新たな大学生活を始める皆さん、21世紀型的女子大として生まれ変わるノートルダムは、あなた方一人ひとりの成長を支援します。さあ、一緒に成長の一步を踏み出しましょう。

(野田)

●広報委員長 野田 ●広報委員 小山、長沼、佐藤(純)、薦田

京都ノートルダム女子大学 大学報

ルヌヴォー Vol.87

2012年4月1日

編集／ 広報委員会

発行／ 京都ノートルダム女子大学 広報課

〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地

印刷／ 為国印刷株式会社